

令和4年度
交通ボランティア等ブロック講習会運営支援業務
事業報告書

令和5年2月

内閣府政策統括官(政策調整担当)

目次

1. 交通ボランティア等ブロック講習会実施概要

事業の目的	1
事業の内容	1
実施の概要	1
参加者アンケート集計結果(全体)	4

2. 実施ブロックの報告

北海道ブロック	8
東北ブロック	33
関東・甲信越ブロック	56
東海・北陸ブロック	80
近畿ブロック	104
中国・四国ブロック	137
九州ブロック	161

1. 交通ボランティア等ブロック講習会実施概要

【事業の目的】

本事業は、家庭及び地域社会における交通安全活動の推進に重要な役割を果たす交通ボランティア、交通指導員及び地域交通安全活動推進委員等（交通ボランティア等）の交通安全に対する意識の高揚及び資質の向上を図り、地域社会全体の交通安全の確保を図ることを目的とする。

【事業の内容】

地域の交通情勢や特性を認識させるとともに、子どもや高齢者等の年齢層に応じた指導方法、実践的手法等を受講者に習得させることを目的とした講習会を実施する。

講習会のプログラムは、各ブロックのテーマに沿った内容を効果的に実施できる知見を持った講師による講演のほか、各地域における最新かつ有益な活動事例の発表とコーディネーターの進行による意見交換会より構成する。

【実施の概要】

《開催地・開催日・会場・参加者数》

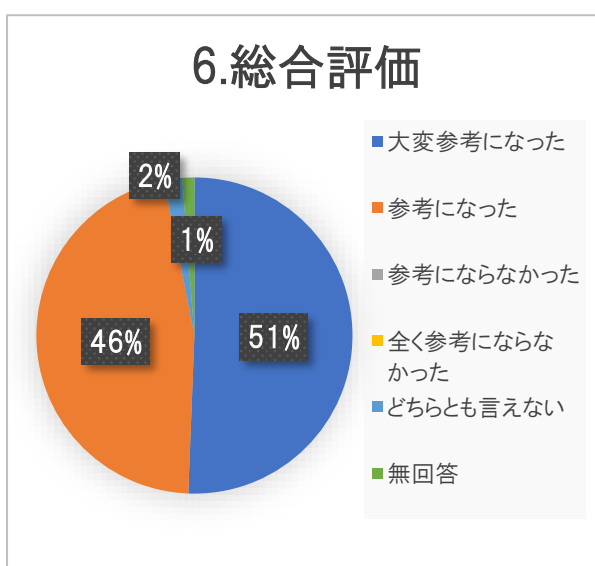
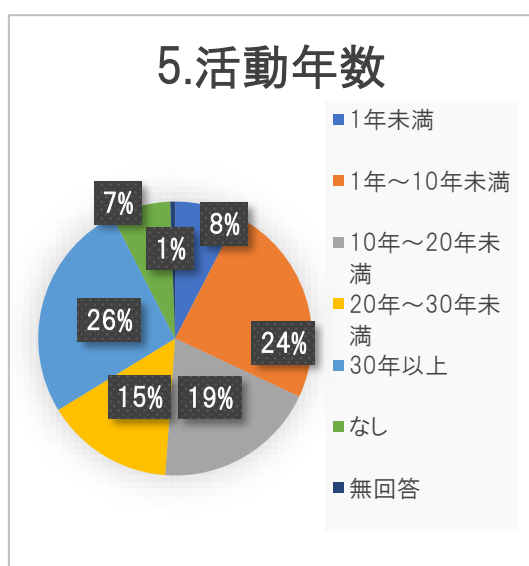
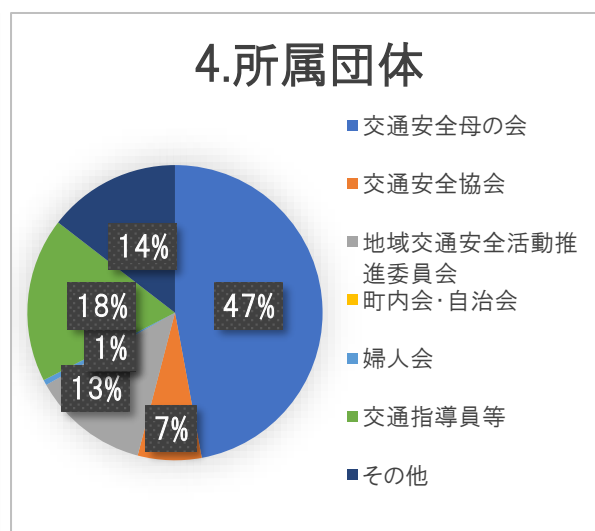
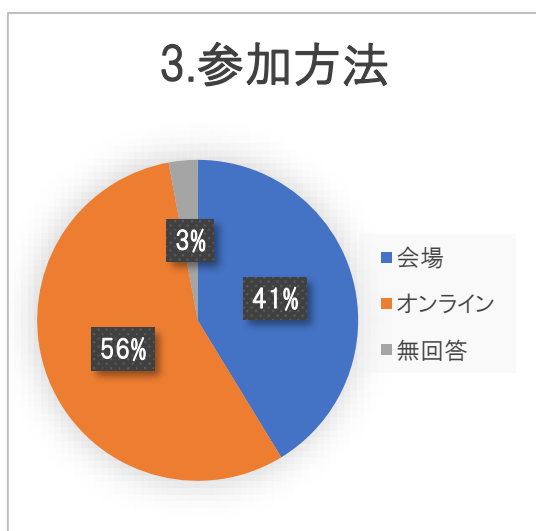
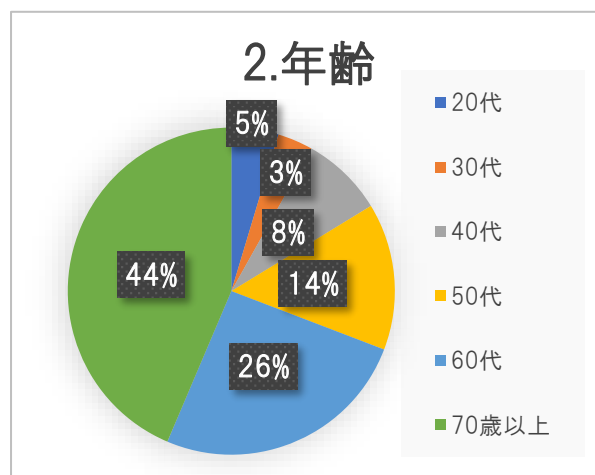
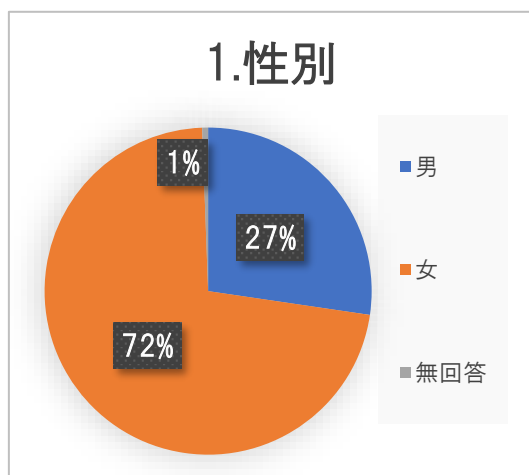
ブロック	開催地	開催日	会場	参加者数
北海道	北海道 札幌市	11月29日(火)	ホテルポールスター札幌	現地 20名
		～30日(水)	コンチェルト	オンライン 21名
東北	岩手県 盛岡市	9月6日(火)	MALIOS(マリオス)	現地 15名
			181会議室	オンライン 15名
関東・ 甲信越	神奈川県 横浜市	11月9日(水)	ワークピア横浜	現地 14名
			いちよう	オンライン 16名
東海・ 北陸	岐阜県 岐阜市	10月27日(木)	岐阜県図書館	現地 14名
			2階研修室1	オンライン 11名
近畿	和歌山県 和歌山市	10月20日(木)	和歌山県民文化会館	現地 14名
			大会議室	オンライン 17名
中国・ 四国	島根県 松江市	10月17日(月)	島根県民会館	現地 13名
			3階大会議室	オンライン 23名
九州	大分県 大分市	10月12日(水)	ホテル日航大分オアシスタワー	現地 10名
			21階エトワール	オンライン 20名

《講師・コーディネーター》

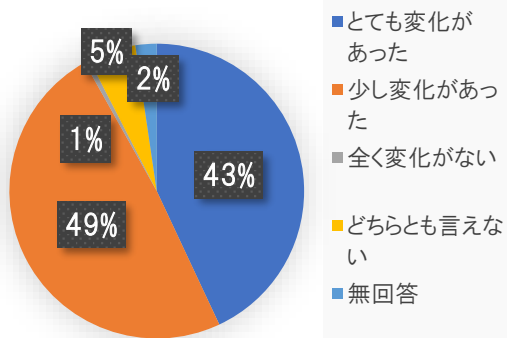
ブロック	演題・講師	コーディネーター
北海道	①「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～ 奥山 祐輔（黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 ゼネラルマネージャー／日本交通心理学会／主任交通心理士） ②「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」 稲垣 具志（東京都市大学 准教授）	奥山 祐輔（黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 ゼネラルマネージャー／日本交通心理学会／主任交通心理士）
東北	①「子どもの特性と交通事故防止」 宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長） ②「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～ 奥山 祐輔（黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 ゼネラルマネージャー／日本交通心理学会／主任交通心理士）	宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）
関東・甲信越	①「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」 稲垣 具志（東京都市大学 准教授） ②交通事故被害者家族の視点から 佐藤 昌史（NPO 法人 交通事故後遺障害者家族の会／東京都立小金井工業高等学校主任教諭）	宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）
東海・北陸	①「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～ 小川 和久（東北工業大学 総合教育センター 教授） ②「子どもの特性と交通事故防止」 宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）	宮田 美恵子（特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長）

ブロック	演題・講師	コーディネーター
近畿	①「生命いのちを越すものはない」 児島 早苗(NPO 法人 KENTO 代表) ②「交通ルールの遵守と交通マナーの実践及び改善方法(子供と高齢者をいかに守るか?)」 蓮花 一己(帝塚山大学 学長)	鈴木 春男(千葉大学 名誉教授)
中国・四国	①「子どもの特性と交通事故防止」 宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長) ②「高齢者に対する交通安全の動機づけ」 鈴木 春男(千葉大学 名誉教授)	鈴木 春男(千葉大学 名誉教授)
九州	①「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」 稲垣 具志(東京都市大学 准教授) ②「子どもの特性と交通事故防止」 宮田 美恵子(特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長)	稲垣 具志(東京都市大学 准教授)

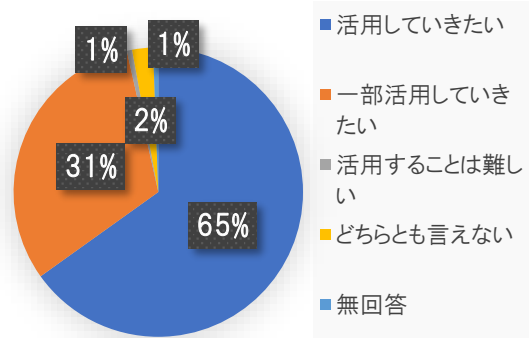
【参加者アンケート集計結果(全体)】



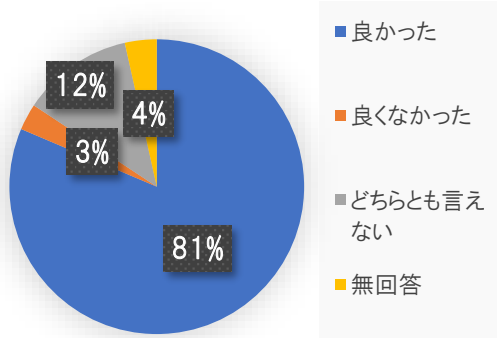
7.意識の変化



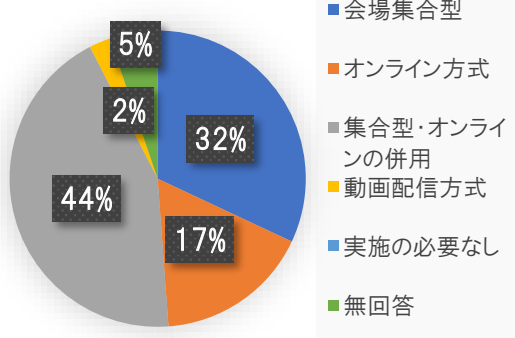
8.講義内容の活用



9.実施方法



10.来年度の実施方法



**令和4年度交通ボランティア等
ブロック講習会 参加者アンケート**

このたびは、講習会にご参加いただきありがとうございました。

参加者の皆様からのご意見等をもとに、今後の講習会の運営と内容を改善して参りたいと考えております。

つきましては、こちらのアンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。(回答は匿名で集計されます)

ブロック名	<input type="checkbox"/> 北海道ブロック <input type="checkbox"/> 東北ブロック <input type="checkbox"/> 関東・甲信越ブロック <input type="checkbox"/> 東海・北陸ブロック <input type="checkbox"/> 近畿ブロック <input type="checkbox"/> 中国・四国ブロック <input type="checkbox"/> 九州ブロック
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
年齢	<input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70歳以上
参加方法	<input type="checkbox"/> 会場 <input type="checkbox"/> オンライン
所属団体	<input type="checkbox"/> 交通安全母の会 <input type="checkbox"/> 交通安全協会 <input type="checkbox"/> 地域交通安全活動推進委員 <input type="checkbox"/> 町内会/自治会 <input type="checkbox"/> 婦人会 <input type="checkbox"/> 交通指導員等 <input type="checkbox"/> その他()
交通ボランティアの活動年数	<input type="checkbox"/> 1年未満 <input type="checkbox"/> 1～10年未満 <input type="checkbox"/> 10～20年未満 <input type="checkbox"/> 20～30年未満 <input type="checkbox"/> 30年以上 <input type="checkbox"/> なし
総合評価	<input type="checkbox"/> 大変参考になった <input type="checkbox"/> 参考になった <input type="checkbox"/> 参考にならなかった <input type="checkbox"/> 全く参考にならなかった <input type="checkbox"/> どちらとも言えない
意識の変化	<input type="checkbox"/> とても変化があった <input type="checkbox"/> 少し変化があった <input type="checkbox"/> まったく変化がない <input type="checkbox"/> どちらとも言えない
今回の講義の今後の活用について	<input type="checkbox"/> 活用していきたい <input type="checkbox"/> 一部活用していきたい <input type="checkbox"/> 活用することは難しい <input type="checkbox"/> どちらとも言えない
今回の実施方法について	<input type="checkbox"/> 良かった <input type="checkbox"/> 良くなかった <input type="checkbox"/> どちらとも言えない
来年度の実施方法について	<input type="checkbox"/> 会場集合型 <input type="checkbox"/> オンライン方式 <input type="checkbox"/> 集合型・オンラインの併用 <input type="checkbox"/> 動画配信方式 <input type="checkbox"/> 実施の必要なし

今後、取り上げて欲しいテーマ、講演等があれば、お聞かせください。

本講習以外で、交通ボランティア活動に必要な知識・技術を得るための機会や方法等についてご意見があれば、お聞かせください。

本講習会の運営、スタッフの対応等についてご意見があれば、お聞かせください。

その他、ご意見ご要望ご感想などお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

2. 実施ブロックの報告

北海道ブロック

1.プログラム詳細

11月29日(火)【1日目】

時間	分	内容
13:00～13:30	30	受付
13:30～13:45	15	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(北海道庁)
13:45～15:15	90	講演① 黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 ゼネラルマネージャー 奥山 祐輔 (日本交通心理学会／主任交通心理士) 「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～
15:15～15:25	10	休憩
15:25～16:55	90	講演② 東京都市大学 准教授 稲垣 具志 「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」
16:55～17:00	5	事務連絡等
17:00		終了

11月30日(水)【2日目】

9:30～10:00	30	受付
10:00～11:00	60	活動事例発表
11:00～11:10	10	休憩
11:10～11:50	40	活動事例発表を元にした意見交換会
11:50～12:00	10	講評(コーディネーター) 黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 ゼネラルマネージャー 奥山 祐輔 (日本交通心理学会／主任交通心理士)
12:00～12:10	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
12:10		終了

2. 講義等の記録

【1日目】

■ 講演①

黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部

ゼネラルマネージャー 奥山 祐輔

(日本交通心理学会／主任交通心理士)

「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～

1. 高齢ドライバーの運転状況

1-1. 運転頻度 (図1 参照)

- ・ 高齢ドライバー全体の約 92% は、ほとんど毎日か週 2-3 回運転している。
- ・ 高齢ドライバーの全年齢層において、50% 以上が、ほとんど毎日運転している。

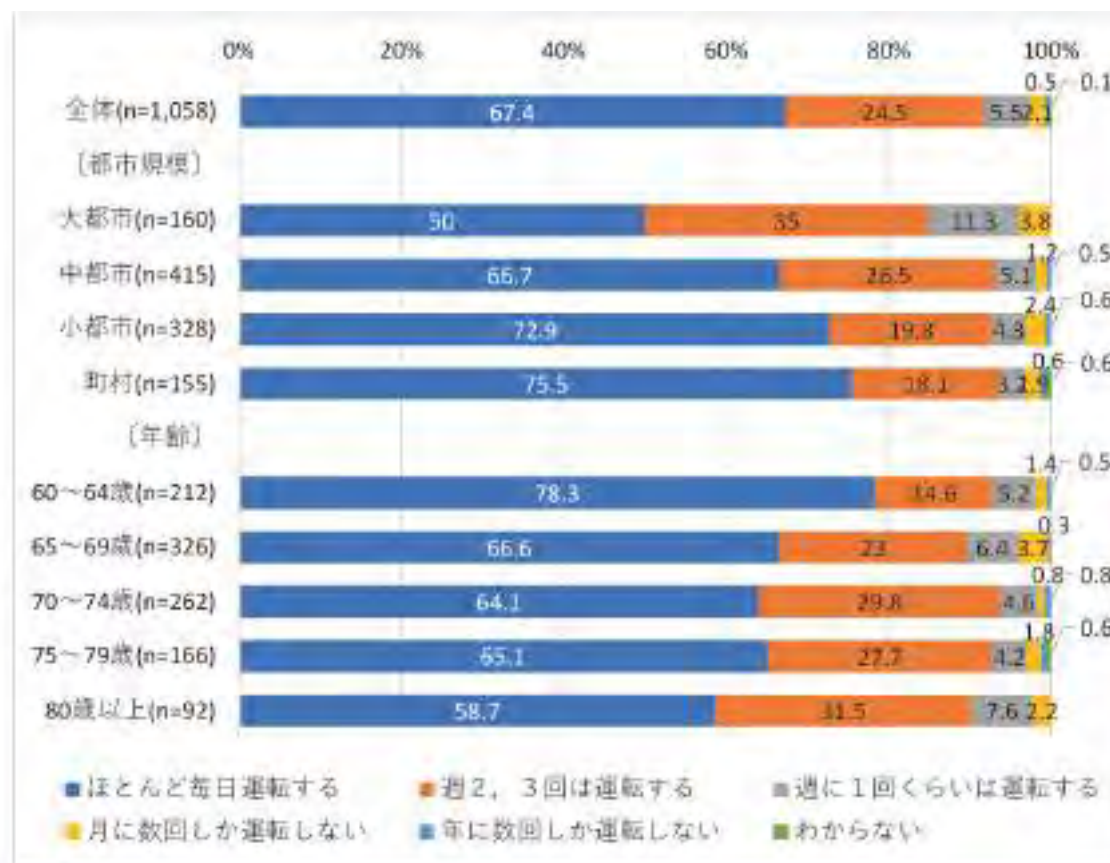


図1. 高齢ドライバーの運転頻度 (出所：内閣府「令和元年度版高齢社会白書」)
(内閣府「令和3年度高齢者の交通安全対策に関する調査報告書」p.8より)

1-2. 自家用車利用と公共交通機関利用との経済的負担額の比較（図2参照）

- ・都市部では、鉄道やバスを利用した方が、経済的負担額が小さい。

（負担額：公共交通機関利用<自家用車利用）

- ・過疎地では、自家用車を利用した方が、経済的負担額が小さい。

（負担額：公共交通機関利用>自家用車利用）



図2. 自家用車利用と公共交通機関利用との経済的負担額の差（内閣府「令和3年度高齢者の交通安全対策に関する調査報告書」p.21より）

1-3. 高齢者の運転免許自主返納率

- ・自主返納率は東京都をはじめとした都市部で高い。
- ・しかし、経済的負担額が小さい都市部においても、その自主返納率は4%程度と低い。

⇒【ディスカッション】なぜこんなに返納率が低いのだろうか？

- ①公共交通機関が発達していても駅やバス停まで歩きとなり、車の方が利便性が高い。
- ②運転免許証という資格をなくすことへの心理的な抵抗感など、複合的な理由が絡んでいるのではないか。

⇒【ディスカッション】もし免許を返納するとしたら、どんなタイミングなのだろうか？

- ・家族からのすすめ
- ・事故の経験から
- ・自己判断

2. 身体機能の低下による運転への影響

2-1. 筋力・体力の低下

①筋力

- ・姿勢の維持などに必要な体幹の筋肉の衰え
- ・ペダル操作に必要な下肢筋力の衰え

②柔軟性

- ・安全確認に必要な運転姿勢維持のための柔軟性の低下

③体力

- ・運転操作維持のための持久力などの低下

2-2. 脳機能の低下

① 集中力、記憶力（作動記憶）

- ・同時にいろいろなことが出来なくなる。

② 狭くなる有効視野

- ・周囲の変化に気づくのが遅れる。または見落とす。

3. 交通事故と年齢

- ・年齢層別人口 10 万人当たりの交通事故負傷者数と、年齢層別・状態別人口 10 万人当たりの交通事故死者数を参照すると、若い年代の方が負傷者数（交通事故数）は多いが、死亡事故数は高齢者の方が多い。

⇒高齢者の交通事故を減らすための対策が必要

4. 高齢ドライバーの事故対策

4-1. 問題提起

- ・高齢ドライバーの事故を減らす方法として、運転免許返納だけでなく、段階的に移動の機会や行動範囲を制限するなど、「中間の選択肢」をもつことはできないだろうか。
- ・移動の制限はあっても、生活の満足度が下がらないようにする方法はないだろうか。

4-2. 安全運転に必要な能力とは

「運転行動の階層的アプローチ（図3参照）」の考え方

- ・安全運転には、①運転技能の基礎（車両操作等の基礎技能の習得、交通法規の理解など）、②交通状況への適応（危険予測・危険回避、コミュニケーションなど）、③運転計画（目的地までの経路、移動時間帯、体調管理など）、④自己コントロール、車利用の目的、価値観・生き方などの4つの階層の技能を身につけることが必要である。
- ・さらに、4つの階層の能力に対して、自己評価能力（振り返る力）も必要となる。
- ・車両操作は重要だが、安全運転は操作技能だけでは実現できない。
- ・高齢ドライバーは、操作技能の低下を、運転計画や自己コントロールで補うことができるのではないだろうか。

レベル	必要な知識・技能	自己評価 (振り返る力)
IV	<ul style="list-style-type: none"> 自己コントロール（感情・欲求・動機の制御） 車利用の目的 価値観、生き方 	例) 何のために車を利用しているのか
III	<ul style="list-style-type: none"> 運転計画 (目的地までの経路、移動時間帯、体調管理、環境整備) 	例) 計画に無理はないか 体調は良好か
II	<ul style="list-style-type: none"> 交通状況への適応（危険予測、危険回避、状況判断、他者とのコミュニケーション） 	例) きちんと安全確認ができていないか 気づくのが遅れていないか
I	<ul style="list-style-type: none"> 車両操作技能、運転技能の基礎（基礎技能の習得、交通法規の理解） 	例) 操作が荒くなっていないか

図3. 運転行動の階層的アプローチ (Keskinen, 1996)

4-3. 補償行動

・補償行動とは、身体機能の低下が運転に影響を及ぼさないよう、安全運転を維持するための様々な工夫や努力のこと。

・例

行動の工夫：活動範囲、移動時間の制限など

資源の活用：IT 技術、サポカーの活用など

ソーシャルサポート：他者から支援を受けるなど

自分が変わる：行動変容、態度変容など

⇒【ディスカッション】感情や体調面、運転計画など、どの部分を補償するのかを考え、人に勧めたい補償行動のアイデアを提案し、他者と共有する。

⇒【ディスカッション】あらためて、多少の制限はあっても、生活の満足度が維持できる「中間の選択肢」を考えてみる。

■講演②

東京都市大学 准教授 稲垣 具志

「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」

1. はじめに

「自転車の安全利用の推進」は、極めて難しいテーマである。

なぜなら自転車は非常に主観的な乗り物であるからだ。クルマを運転している際に交通ルールを守る人が、自転車に乗った際にも同じように交通ルールを守れるか。これは自転車を利用する人々のパーソナリティに問題傾向があるのではなく、交通手段が代わることで同じシチュエーションに対して自分の選択する行動が変わってくるからだ。

クルマであれば法令遵守の精神の方が勝るが、乗り物が代わり自転車になると法令遵守よりも個人の勝手な主観的な合理主義が優位となってしまう。

本日の講義では、このような主観的な行動選択を誘ってしまう自転車利用者に対するアプローチとして、データなどの客観的な視点を与えることによる自転車安全利用推進の戦略について考えていきたい。

●安全意識の3レベル

- ①ルールを知る
- ②ルールを守る
- ③「相手」を知る

2. なぜ自転車の安全利用促進が重要なのか



【自転車関連事故の推移】

- ・過去10年間で自転車事故数は減少傾向にあるが、コロナ禍においては少し傾向が変化してきている。
- ・近年、自転車保険の加入義務化の影響などにより自転車事故が以前より顕在化してきているのではないかという見解もある。
- ・コロナ禍により公共交通機関よりも自転車を利用する人が増えたことも一因として考えられる。
- ・全体の事故のうち、自転車事故が占める割合は**全国では20%程度**。

⇒**自転車事故を撲滅することができれば、全体の5分の1の事故がなくなる。**

そのため、自転車事故を減らすことは重要である。

【自転車事故の発生場所】

- ・自転車の事故は交差点で起きやすい。
- ・首都圏では交差点・交差点付近での事故は減少傾向にある。自転車の車道通行の原則が徹底され、車道の通行率が高まっていることもあり、歩道からの横断時における事故が発生しやすい交差点事故の割合が減少している可能性がある。

【交差点での事故】

ーパターン1 細街路同士の交差点ー

- ・自転車事故の約4～5割は、出合い頭。
- ・信号のない交差点で多発。

原因①：不適切な右左折⇒自転車の右側通行、ショートカット

※どんなに狭い交差点でも二段階右折。

―世田谷区玉川での交差点の定点観測による違反実態調査―

交差点に近づく自転車を観測し、違反状況を抽出・整理。

結果の一つとして、自転車右折時の左側通行違反率が顕著に高い傾向が見受けられた。

(主観的な合理性を求め続ける自転車利用者の典型的特徴。)

また、年代に関係なくどんな人にも、上記の違反傾向にあった。

⇒**現場で観察し、事実を具体的に知ることの重要性。**

⇒安全教育・啓発においては一般的な交通ルールの周知徹底はさることながら、人々の心を変えて行動に変容をもたらすためには、実際に自転車を利用する交通場面を生々しく想像できるように、問題のある現場の具体的な事実について情報提供することが不可欠。

原因②：一時不停止

一時停止規制のある交差点は、自転車も守らないといけない。

しかし、一時停止規制のある交差点での事故のうち、自転車運転者の一時停止無視率は、80%。

⇒当たり前すぎて遵守率が極めて低い「交差点で止まる」という行為が、出会い頭事故が典型である自転車事故削減のためにいかに重要なポイントであるかが客観的に示されるため、明確に認識させることが肝要。

ーパターン2 幹線道路同士の交差点ー

歩道から横断する自転車と右左折車との事故が多く、過失は圧倒的にクルマ側にある。

そのため、自転車が優先されることを過信しないこと、ドライバーに気づいてもらっているか注意をすること。

- ドライブレコーダの画像分析の内容
- 自転車の通行位置<順走・逆走>別の結果
- タクシードライバーの注意資源の偏り
- 「相手を知る」の実践による自転車利用者への気づき、コミュニケーションの重要性

ーパターン3 幹線道路と細街路との交差点ー

細街路から幹線道路へ出てくるクルマと、幹線道路を通行する自転車との事故率を考えてみる。クルマから見て左側から、車道逆走と歩道民地寄り通行の自転車の事故率がとても高い。

- その要因として、物理的側面と、ドライバーの心理的（注意資源の偏り）側面
- 「相手を知る」実践の重要性を再認識することができる。

3. 自転車問題の解決に向けたポイント

- ①自転車の交通問題は、主観的な要素が多い
 - ・データを上手に活用した客観的アプローチ。
 - ・ヒヤリハット映像による他者からの視点が有効。
- ②自転車の交通問題は、広域的な課題
 - ・安全利用を推進するマンパワーが必要。
 - ・ボランティア・自治会・PTA 等地域のちからが必要。
- ③自転車の交通問題は、地域性が強い
 - ・地域の実情を理解している市民のノウハウ。
 - ・地域での日常的に自転車を利用する人の説得力。
 - ・利用者の立場にとって最適な伝達手法を考えることが重要。

【2日目】

■活動事例発表

札幌市交通安全運動推進委員会

小ケ口 悦世

私は今年の3月まで別の仕事をしており、4月に入ったばかりの新人となります。それまでは交通安全運動推進委員会という名前も全く知らず、大雑把に交通安全のことを何かするのかなぐらいのことしか思っていませんでした。そんな私がこの半年で経験した業務について皆さんにお話ししたいと思います。私たち交通安全運動推進委員会というのは札幌市10区にあり、局長を中心に交通教育指導員3人体制で活動しております。交通教育指導員の主な仕事は、交通安全教室、街頭啓発などとなります。

まず交通安全教室については、小学校・幼稚園・保育園・認定こども園・高齢者クラブなどに赴き、パワーポイントを使用した交通安全教室を行なっております。私の勤務する清田区の安全教室期間については、小学校が4月の半ばから5月の半ばまで、幼稚園・保育園などは春と冬に分かれ、春が6月の半ばから7月の半ばまで、冬は11月の初めから12月の半ばまでとなります。高齢者クラブは、8月の半ばから10月の初めぐらいまでやるのですが、今年はコロナの関係で中止となりました。小学校の交通安全教室は、一番大変で1年生、2・3年生、4・5年生、6年生と4つに分かれ、その内容は全て違っております。限られた時間の中で、とても静かに聞いてくれる生徒さんがいれば、結構ざわざわしているところもあるため、その時その時の状況に応じた対応が必要です。特に小学校は4月の中旬から毎日のように安全教室があり、各学年によって内容が異なるため、私のように4月から初めて勤務した場合、一気にパワーポイントの内容を暗記する必要があり、大変苦労しました。

安全教室の内容については、パワーポイントを使用して年齢ごとに交通ルールを分かりやすく理解してもらうため、危険予測やクイズなどを取り入れ、自分で考えてもらい、なるべく飽きのこないものにするようにしています。教材作りについては、いろいろ資料を集め、受け持っている区の危険な道路や公園周辺などの普段使っている身近な場所を撮影しています。道路の安全な歩き方や自転車のルールなどをアニメ形式にし、皆さんにわかりやすく交通安全を考えてもらうように作っております。パワーポイントで作成したものの声も教育指導員が声優となり、一つのアニメを作り上げています。私も声優に挑戦したところ、棒読みになり、聞くに耐えないアニメとなりましたが、本当に先輩たちのプロの意識と努力にいつも感心させられます。

安全教室がない期間については、教材作りや交通安全運動などの街頭啓発、自転車街頭指導などを行なっています。その他、色々な事務作業もあります。街頭啓発などは、町内会の皆様や学校などと協力し、道路で交通安全の旗を持ち、運転手さんに注意を促したり、夜光反射材などを配布し、一件でも多く事故をなくせるように努力しています。

今年はまだコロナは大変ではありますが、ある程度行事の緩和もあり、事故防止の活動も様子を見ながら行なっていましたが、これからもどんな事をすれば交通事故で、痛い思い、悲しい思いをなくせるのかを考え、活動していきたいと思っております。新人の私からの話はこれで以上となります。ご清聴ありがとうございました。

滝川市くらし支援課 交通・生活安全係 交通安全推進員

岡嶋 克明

滝川市役所くらし支援課交通安全係に所属しております、交通安全推進員の岡嶋です。私は滝川市役所に平成30年から勤務し、現在5年目です。市の交通安全業務を担当しているのは4名です。交通安全推進員2名、交通安全指導員2名で実施しています。本日は滝川市の交通安全啓発活動について紹介します。

市民参加による「旗の波運動」です。滝川市の「旗の波運動」は交通安全推進協議会を中心に、各団体・企業・各町内会及び老人クラブ等に協力をお願いし、市内の数多くの場所で実施しています。例年毎回600から700人程度の市民に参加頂き、今年は計2,600名程の参加いただきました。年4回、実施しています。この人数で実施している自治体は、滝川市だけではなかろうかと自負しているところです。

次に、幼稚園・保育所の交通安全教室です。ここでは信号の見方や横断歩道の正しい渡り方、歩行訓練を実施しています。また、防犯になってしまいますが、幼稚園・保育所の年長の子供を中心に、不審者に対してどう行動するかを教えています。

次に自転車利用者に対する啓発活動です。市役所、高校の教員、滝川警察署が協力し、JR滝川駅周辺で自転車通学者に対して交通マナーの徹底、盗難防止を呼びかける啓発活動を実施しています。鍵を2か所施錠する2ブロック運動や自転車駐輪場の管理も実施しています。また、市内の小中学校でも、自転車の点検や交通ルール、正しい乗り方を教えています。学年ごとに教育内容を変更し、毎年同じ内容にならないよう配慮し実施しています。教育内容は1年生と2年生は屋外での歩行訓練、3年生から6年生は自転車の点検・乗り方、交通ルールを知る映像などを使用し教えています。特に5・6年生は、体育館でコースを作成し、体験してもらい教えています。

中高生については、自転車の乗り方のマナー、交通ルール、盗難防止、自転車保険の説明・加入についてのパンフレットを作成し、自転車利用が始まる4月に各学校に配布しています。小学生低学年用のチラシでは「ぶたはしゃべる」を自転車点検の合言葉として普及しています。

次に、ダミー人形を使用した衝突実験です。ダミー実験は滝川市内の実施を希望する小学校・幼稚園および保育所の子どもたちに対して、ダミー人形・4tダンプを使用し、3種類の交通事故を再現し正しい交通ルールと交差点での注意点を教え、交通事故に遭わないようにすることを目的としています。自治体で車両を準備し、実際に交通事故を体験できるのは非常に珍しいと思います。

最初の実験は、歩行者が交差点の車道付近で信号待ちをしているという状況です。車両は左折しようと交差点に進入します。左折し、内輪差でダミー人形を巻き込む事故です。この実験では、信号待ちをしている時は車道から離れた後ろの方で待つ事を教えています。次は、自転車で道路を横断中という状況です。ダンプが交差点を左折する際に、自転車が横断し車と接触するという状況です。この実験で、自転車の道路の横断は、道路を渡る前に一時停止し、自転車を降りて歩いて渡ることを学ぶための実験です。次に3番目の実験です。これは、駐車中の車両から子どもが急に飛び出し、車両と接触するという状況です。この実験では車の陰からの道路横断は危険だということを学ぶ実験です。子供達に車の陰から車が来ていないかどうかの確認方法を教え、横断歩道が近くにある場所は横断歩道を渡るように教えています。この三つの状況を見せた後、仮設の横断歩道を使用し、道路を横断する時は止まる、左右の安全を確認し渡ることを教えています。発表は以上です。今後も交通事故のない社会づくりに貢献していきたいと思っております。ありがとうございました。

枝幸地域交通安全活動推進委員協議会

徳保 喜幸

本日の活動報告を行う機会をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。今日は地域交通安全活動推進委員という立場で参加しておりますが、私自身の交通安全活動の経歴についてはじめに申し上げます。私は23歳で交通安全指導員を拝命し、現在まで38年間活動しております。現在は枝幸町交通安全指導員会の会長を務めております。また運転免許教習指導員を23年間やっており、毎月枝幸町において業務にあたっております。また地域交通安全活動推進委員については平成24年に拝命し、10年が経過しております。自分自身のことではありますが、若い時から交通安全活動に関わってきたと改めて考えております。

枝幸町は宗谷管内の一番南に位置し、南北に55キロの海岸線を有する漁業を中心とした町です。活動推進委員は枝幸町に5人、浜頓別町に2人、中頓別町に1人で8人の委員が活動しております。本日は枝幸町の地域交通安全活動推進協議会の活動の一端を紹介できればと考えております。

枝幸町においては、非常に残念なことです。昨年まで4年連続で交通死亡事故が発生しております。以前からたびたび死亡事故は起こりますが、その多くが町内の人間ではなく、他からの旅行者が中心でしたが、昨年一昨年では4名が亡くなり、それが全て枝幸町民の事故でした。特に昨年に発生した事故は、飲酒運転に起因する事故でしたので、関係者一同非常に落胆をいたしました。そのため、昨年は特に飲酒運転撲滅運動に力を入れて活動しました。毎年7月と12月に飲食店やコンビニを訪問し、お客さんや店の経営者の方に飲酒運転撲滅をお願いしてきましたが、死亡事故の経緯もあり、より一層力を入れた活動を行いました。枝幸町交通安全指導員会、枝幸警察署、行政の計16名で分担し実施して

おります。また、啓発グッズの購入については、交通安全協会などの協力を得ながら、物品を用意しております。

それから各期の交通安全週間に実施される交通安全啓発、旗の波作戦や大型ショッピングセンターをお借りしての啓発活動にも参加しております。また、毎年バイクの日の前後に、道の駅にてバイク旅行者に対する安全啓発にも参加しております。

次に、枝幸地区協議会の独自の活動ですが、毎月5のつく日にパトライト作戦を月に3回程行なっております。冬の期間は車を止める場所がなくなるので、4月から11月ぐらいまで毎月行なっております。

地域交通安全活動推進委員の活動は、崇高で重要なものであると認識をしております。推進委員としての目的をしっかりと自覚し、地元警察署と連携しながら地域の交通安全意識の向上に努めていきたいです。枝幸地区は交通指導員を兼務する指導員がいるということもあり、行政・関係機関・警察署の連携が取りやすい環境にあります。近年、北海道の交通死亡事故は減少してきております。少し前までは、年間800人以上の方がなくなっていた中、120人という数まで減ってきております。道路環境の改善、自動車の安全装置の充実というのがあるのかもしれませんが、関係者皆様の長年にわたる啓発活動により、住民の交通安全に対する意識の高揚があると考えます。

しかし、未だ悪質な運転による痛ましい事故が発生しております。引き続き、我々の活動も手を緩めてはなりません。また、高齢運転者の問題も新たな問題として対応しなければいけないものと考えております。特に北海道、とりわけ私どもの地域のような田舎の町ですと、公共交通機関がさほどなく、多少無理をしてでも車に頼らざるを得ない地域がございます。また、車での移動距離も非常に長いという特徴もあります。自宅から買い物、病院に行くのに片道30km以上走らなければならないという地域もございます。私も日頃から特に若い方々へ高齢運転者への配慮というものをお願いしています。いずれは自分も通る道だということをお伝えしています。今後は地域の特徴を啓発活動に関わる者たちがしっかりと認識し、ストップ・ザ・交通事故、安全で安心な北海道の実現のための活動を今後も継続していくことを決意申し上げまして今日の活動報告に変えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

本別地域交通安全活動推進委員協議会

向井 悟

今年度の活動について報告いたします。まず1つ目は、道の駅にて来場者に対して交通安全啓蒙活動を実施しました。2つ目は、本別、陸別、足寄の3町による「タスキリレー」の実施に参加し、交通安全の啓蒙活動をしました。春先の新入学の時期には、生徒児童に対して見守り活動を実施しました。簡単ではございますが、以上活動報告となります。

中標津地域交通安全活動推進委員協議会

丸田 光雄

皆様おはようございます。私は平成 25 年に中標津警察署より地域交通安全活動推進委員を拝命いたしました。現在、中標津警察署管内においては中標津町 4 名、標津町 2 名、別海町 2 名、羅臼町 2 名の計 10 名で活動しております。

中標津町の活動内容としては、年 4 回の交通安全出動式、啓発活動に参加しております。7 月にも中標津警察署とタイアップし飲酒運転撲滅活動として飲食店を回り、啓発活動しております。中標津には開陽台という場所があり、ここがライダーの聖地となっています。8 月 19 日のバイクの日にはたくさんのライダーの方が来るので、啓発活動を行いました。その他、毎月 15 日にパトライト作戦も実施しています。

また、交通安全協会の中の高齢者対策部会にて、高齢者 30 名の方に集まっていたいただき、サポカー体験、暗い中での歩行や横断歩道における交通安全啓発講習を実施いたしました。

コロナ前では、小学生・中学生・高校生を対象に講習も行なっておりましたが、現在はコロナのため、小学校 1 年生のみ 4 月の 2・3 週目に、実際目で見えて体感してもらう交通安全活動を実施しております。北海道の交通事故、死亡事故撲滅に向けて頑張っております。ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部

ゼネラルマネージャー 奥山 祐輔

(日本交通心理学会／主任交通心理士)

奥山先生：おはようございます。昨日に引き続きまして黒井産業株式会社の奥山と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。ここからの時間は、意見交換会になります。では 5 名の方の活動について、ご発表していただきました。非常に興味深く私も聞かせていただきました。ありがとうございました。本日のこの意見交換会ですが、私と皆様のご意見を交換するのも一つありだと思っておりますが、色々な地区から同じような活動している方々が集まっていますので、皆様同士で日頃の活動について意見交換していただくのがいいのかなと思います。まず 5 名の方に発表していただきましたが、何かこの発表内容について詳しく教えていただきたいとか、そういう点ございましたら、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

●：帯広の場合は、交通安全推進委員連絡協議会という形でボランティアなのです。たまたま小学校ごとに支部がありまして、それが 23 支部あります。その中に交通安全指導員というのが、各支部に 10 名弱くらいいます。さっき言いましたように、高齢化も進んだ

ものですから、指導員の確保とか苦労しているところです。その関係で今発表していただいた方々はどのような感じで、身分がどのようになっているのか把握したいなと思ってご質問です。

奥山先生：ありがとうございます。それではどなたか積極的にお答えいただける方はおりますでしょうか。

●：私は札幌市の団体職員で、区役所に派遣で給料をいただいて勤務している身分のものになります。

奥山先生：前提としては皆様その身分でしょうか。

●：そうですね。札幌市の交通安全推進委員会は、皆様同じ団体職員だと思います。

奥山先生：人手のほうは足りている状況でしょうか。

●：そうですね。各区によって3名はいるのですが、区によっては学校が多いところもあるので、3人では足りないところもあるかもしれないのですが、一応なんとか回っている感じです。

奥山先生：はい。ありがとうございます。それでは空知地区の方、お答えいただけますでしょうか。

●：私は4名で忙しいときには人手が足りないこともあります。私は会計年度職員で正式な職員ではありません。限られた時間と人数で行なっております。

奥山先生：ボランティアみたいな形で参加されている方もいらっしゃるのでしょうか。

●：はい。指導員として何名かおります。

奥山先生：はい。ありがとうございます。それでは、宗谷地区の方、いかがでしょうか。

●：私共の規模で自治体ですと、交通指導員につきましては非常勤職員という扱いです。給料もそんなにでるわけではないです。活動推進員は、ボランティアで無給。私も詳しいことは勉強不足なもので、申し訳ないです。

奥山先生：ボランティアで参加されている方もいるのですか。

●：そうですね。

奥山先生：根室地区の方いかがでしょうか。

●：先ほどもご紹介したように、みなさん事業を行なっている方ですね。それぞれが会社などしながら、ボランティア活動を行なっております。地味と言いますか、それぞれの町にありますが、12名集まってというのはないですね。各地区で実施しているような感じです。

奥山先生：ありがとうございます。他にご質問等ある方いらっしゃいますでしょうか。

●：石狩管内の当別町からです。ボランティアの指導員ということで、今回お勉強させていただいております。どちらかと言うと当別は人口も少ないし、どんどん減っていついなくなるせいもあり、学校統合し、今現在2つしかないのですよね。活動もそこをいったりきたりという形で行なっております。歴史はあるみたいなのですが、指導員は年齢が高くなりまして。私、来年60歳ですが、一番下です。人員を集めたい。指導員でボランティ

アの方がやっていただける方と、みんなそれぞれ知り合いに声をかけてっていうので行なっております。どうしても、若い人を引っ張れないので、他の地区の方々は若いボランティアの指導員をどのように募集しているのか、アドバイスいただけないかなと思ひまして。よろしければお願いします。

奥山先生：ありがとうございます。指導員の方も高齢化がすすんでいるということですね。これは確か東北ブロックの際にも質問があり、意見がありました。いかがでしょうか。若い力、工夫しているという方、宜しくお願ひいたします。オンラインの方もいかがでしょうか。

●：当別はボランティアの指導員が現在、20人近くおります。通常に仕事している方が10人程度おりまして、年齢が高いです。40代後半で子育てが落ち着いた時点で、知り合いがやっており、誘ってもらい入りました。他の地区の方は、無給の指導員さんは使っていないでしょうか。

奥山先生：何かご意見ありましたら、お願ひいたします。

●：私は交通指導会の会長しております。毎年研究会にもでておりますが、そのお悩みというのはどこの町も抱えている問題かと思ひます。私は61歳ですが、私より若い人は2人しかいない。後ははるかに上で、高齢で77歳の副会長で、スポーツマンでまだまだ体が動くということでやってもらっております。どの地区もこの悩みはあるのではないかと思ひます。

奥山先生：なかなかこれといった解決策はないのかなと思ひます。私の方から一つご質問したいのですが、学校（小学校、中学校、幼稚園等）の連携を実践されている報告があったかと思ひます。私も中学校に行き、交通安全教室をやることあるのですが、今学校の先生は忙しいと言われております。学校の先生の関わり具合、関心度、協力体制、このあたりはどうなのかお聞きしたいです。まず札幌地区はいかがでしょうか。

●：札幌地区です。私は4月に入ったばかりで詳しくはないですが、スクールガイドさん、町内会さん、母の会で動いており、協力していただいております。指導員は、同じくボランティアでやっていただいて、高齢者90歳近くでやめさせてくれないといった感じではあります。

奥山先生：学校の先生だと、実際の交通教育に担当してくれるのか、ボランティアの方がおそらくやっているかと思うのですが、学校の先生がやっていることはありますか。

●：学校の先生は、学校付近に朝立ってくれております。

奥山先生：他にいかがでしょうか。学校の連携等について意見などありますでしょうか。

●：地方から来ている先生が多いので、業務過多があり、そちらに手は出せないといった感じがあります。ボランティアの私たちで、交通安全の教室や街頭指導もやってしまうのが現状です。本当は指導員としましても年齢が上なので、先生方に協力を仰ぎたいのですが、一応声かけはしていますが積極的ではないです。現在当別で抱えているのは、地元に着していただけたら良いなと思ひます。

奥山先生：お二方からご意見いただきました。逆にうちの地区は積極的に先生が手伝ってくれるなどありますでしょうか。

●：交通安全推進委員のほかに各学校にニコニコパトロールと言い、登校時のみ、毎朝4か所程に立っていただき、学校側にまとめていただいております。1年に数回ですけど、小学校ごとに目立つパーカーを作り、活動しております。過去に帯広市は、市の発令を受けた指導員が交通指導員として立っていたこともあります。それがなくなり、補完する形でニコニコが始まり、PTAも当番制で立っており、そういう活動しております。

奥山先生：他いかがでしょうか。

●：町内会のお話をいたしますね。役員の方々が指導員を探しております。指導員になる方は、年配が多いです。毎日児童の為に立っており、交通安全活動をしております。以上です。

奥山先生：町内会が積極的に行なっているのですね。学校の方は、どうでしょうか。

●：明日も学校の会議があり、年に2回程、スクールゾーン会議があります。母の会の会長として参加しておりますが、指導員の方も参加してくれております。危ない地域などの指摘し話をしております。

奥山先生：学校と共有ができる場があるということですね。

●：各地区それぞれ3校程ありますが、会議に参加しております。コロナで中止になっておりましたが、久々に明日開かれます。今回講習に参加しましたので、今日のことを明日共有できたらと思います。

奥山先生：学校の共有、一緒に活動しているとのことですね。町内会というキーワードもありましたので、是非何かありますでしょうか。

●：私は札幌東区で活動しております。担い手不足、高齢化をひしひしと感じております。おじいちゃんとなると高齢になるとは思います。50代～60代前半で、小学校に入るお孫さんがいらっしゃるという方が多い。そういった方の中で、男気のある方は、小学校3年生くらいまでお願いできないか、交通指導員をやっていただくといった感じですね。地域でも何とかしなきゃという風潮です。

奥山先生：ありがとうございます。話題を少し変えたいと思います。先ほどの発表で気になった自転車の安全についてです。事故にあった時、ヘルメット着用は非常に重要です。私の住む仙台市の条例で、ヘルメット着用が定められていますが、罰則ではありません。現状言いますと、ほぼ被っていないです。仙台市の条例で決まっているのに、職員は県庁の人で被らずに来る人もいるのが現状です。いかがでしょうか。ヘルメット着用について何か積極的に行なっていることがありましたらお願いいたします。

●：新入生に対して、自転車のヘルメットの配布をしております。そんなに数も必要ないので、予算もつくのですが、子供の多い市や町ですと、それも難しいのかと思いましたが、うちの町では実施しております。

奥山先生：小学校、中学校ではヘルメット着用（通学時）率がわりと高く、高校生に上がり、大人になるとゼロに近くなります。例えば、小学生、中学生だけが着用するというのではないと思うのですが、子供だけじゃなく高校生などの取組などありますでしょうか。高校生が自らつけるということにより、大人もつけなければいけないのではないかと思うようになります。高校生が積極的な運動をしているという県もごございます。余談ですけど、私 10 年位前に車に轢かれたことがあります。このような仕事をしていてお恥ずかしいのですが、すぐ家に帰りたくて急いでいました。国道の信号が点滅していたのですが、行ってしまいました。やばい、と思った時には、道路上で血が出ていたのですが、僕の場合は横からぶつかり、自転車は飛ばされました。自分はボンネットの上に乗って、ブレーキがかかり放り出されたのです。後頭部から落ちていたら死んでいたのではないかと思うと、やはりぞっとしました。なので、自転車乗る際はヘルメットを必ずつけます。ヘルメットを被っていたら、みたいな事故があるので、是非ヘルメットを何かの啓発につなげていただきたいと思います。何か質問あるという方いらっしゃいませんか。

●：進んでいるところだけがするのではなく、全国で難しかったら、まずは北海道で。来年 4 月からの義務化も浸透していないので、その辺の予算も難しいですが、地道に講習会の中から意見を出していかなければと思います。もう一つ、横断歩道での自転車のマナーについての指導に苦勞がありますが、何かありますでしょうか。

奥山先生：ルールではそうなのだと分かっているけど、行動ではなかなか難しい。我々も日頃から 100 点満点の交通ルールが守られていると言われると怪しい部分があります。自転車は車道で左側を走る。走り方もルールによって決まっています。横断歩道で人が立っていたら、絶対止まらなきゃいけない。これはルールを知らなければ知らせる必要がある。ルールは知っているけどやらない、それなりの教育が必要かと思います。自転車教室をやる時に、学校から頼まれると、自転車の技術練習、あるいはルールを知ってもらうという教育をするケースがあるのです。学習する人たちが積極的に学習する場面が必要です。例えば、これはだめですよ。横断歩道では止まるのですよ、と指導して、明日からするかといわれると、なかなかしない。ただ、学生とグループワークをし、自ら発表する学習スタイルだと行動変容に影響すると思う。我々も教育を頼まれると、低学年とか知識の乏しい子たちには教えてあげる学習スタイルで、高学年は解決策をみんなで考えようという学習スタイルで、引き出していくような学習をやったりします。

昨日私は、高齢者についてもお話ししました。高齢ドライバーの問題はいくつもごございます。高齢ドライバーに知識を身に付けてもらう機会が必要ですが、高齢ドライバーの対策というより、啓発活動のほうがメインだったような気がします。何か地域で積極的に出来る高齢ドライバー対策、教育などありましたらお聞かせください。

●：運転免許の講習指導もしておりますが、70 歳すぎると最寄りの講習学校に行きます。高齢者ドライバーとこの立場で話をすることはそうそうないですが、高齢者の方々、自分が高齢者になり、体力が衰えている、反射神経が鈍くなっているということを自覚して、

そのうえで運転してくださいとお話します。先生の話の中でも、60、70代に自分はまだまだ大丈夫だという自信を逆に持っているということもありましたが、まさにその通りです。頑固な方が大丈夫だと思い運転しているということが、逆に危ないという話をしています。高齢者で運転しなければいけないドライバーもいますから、自分は弱ってきているのだという自覚を持ちハンドルを持っていただきたいと思っています。

奥山先生：私も同感です。高齢ドライバー、実際の技能や危険要素がありますよね。そこを何とかしたい。自己認識、実際の運転、このようなことやっているなどありますでしょうか。

●：高齢者講習、1年に1度、全町で集まってやっております。自分は安全運転していると思い、運転しているのですよね。現実には年と運転のギャップです。反応が遅れる、視野の関係、極端だと前方しか見えていないなど、これが現実です。左右の確認をして、安全確認し、道路を渡る際に、一呼吸。背中を伸ばして意識的に遠くを見てください。100メートル先、左右、見てください。そうすると、車に気づきます。時間は十分あるわけで急いで渡る必要がないですよ、と言葉だけでなく、自分で実際に道路を渡って何秒かかるというのを知り、急ぐ必要ないな、遠くを見る必要があるなど感じてもらうようにしています。ドライバーに関しては、道路を左から右に渡る歩行者に気を付けてくださいと伝えています。あと反射材の活用も伝えています。出かけるときに、一呼吸し、反射材大丈夫かなと気を付けていると、お互い事故にあいにくいのではと思います。

奥山先生：歩く速度を計ったり、事例をもとに気づいていただくという方法ですよね。皆様様々なお意見ありがとうございました。

■講評

貴重なご意見ありがとうございました。私の方で講評させていただきます。ご発表していただいた中で、私仙台から来まして、なるほどと思った事は北海道という土地柄、他県からくる人が事故を起こすケースが多い、バイクはツーリングで来られる方が多いということです。そういった方々への啓発運動、取組は非常に北海道という地域性を感じ、興味深い内容でした。

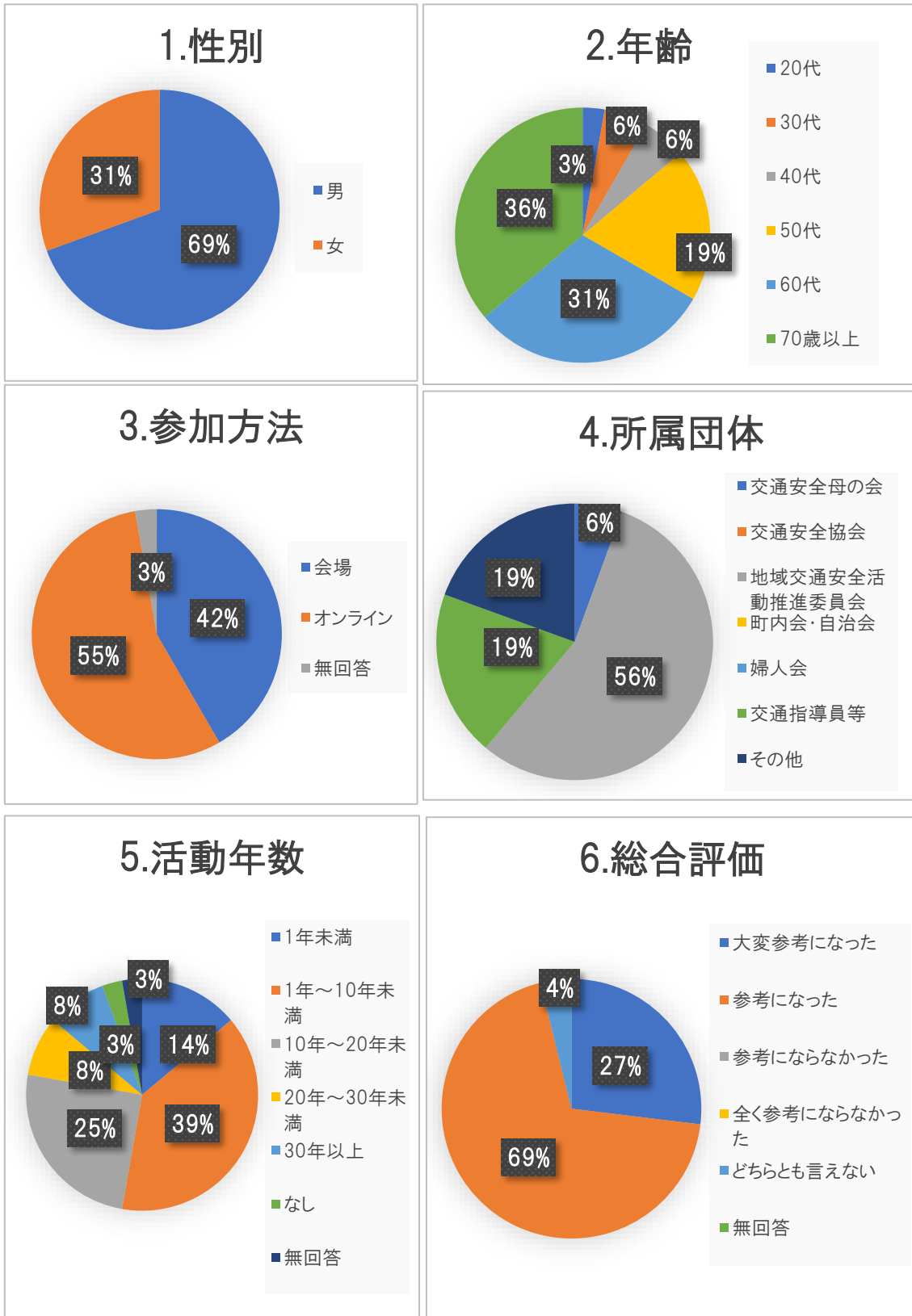
最初に学校との関わりについてお聞きしました。学校と共有し、一緒に活動しているといった事を伺いました。学校ももう一步、積極的に動いてほしいと感じました。私も自己紹介でしましたが、小学校に1年間、中学校に5年間勤務しました。学校の中で、交通安全教育を取り組むというのは、中々負担になるのは分かっていますが、交通安全に積極的に取り組む必要があると思います。先ほど学習指導要領の話もしましたが、子供達には主体的な学習をすすめていきましょうという風になっております。私が学校で取り組んでいるのは、自分の安全だけではなく、地域の安全を考えましょうということです。ある県に行きましたところ、小学生が危ないところの地図を作成し発表するのです。驚いたのは、交差点、横断歩道は渡るのに何秒くらいかかる、おじいちゃん、おばあちゃんには危ない交

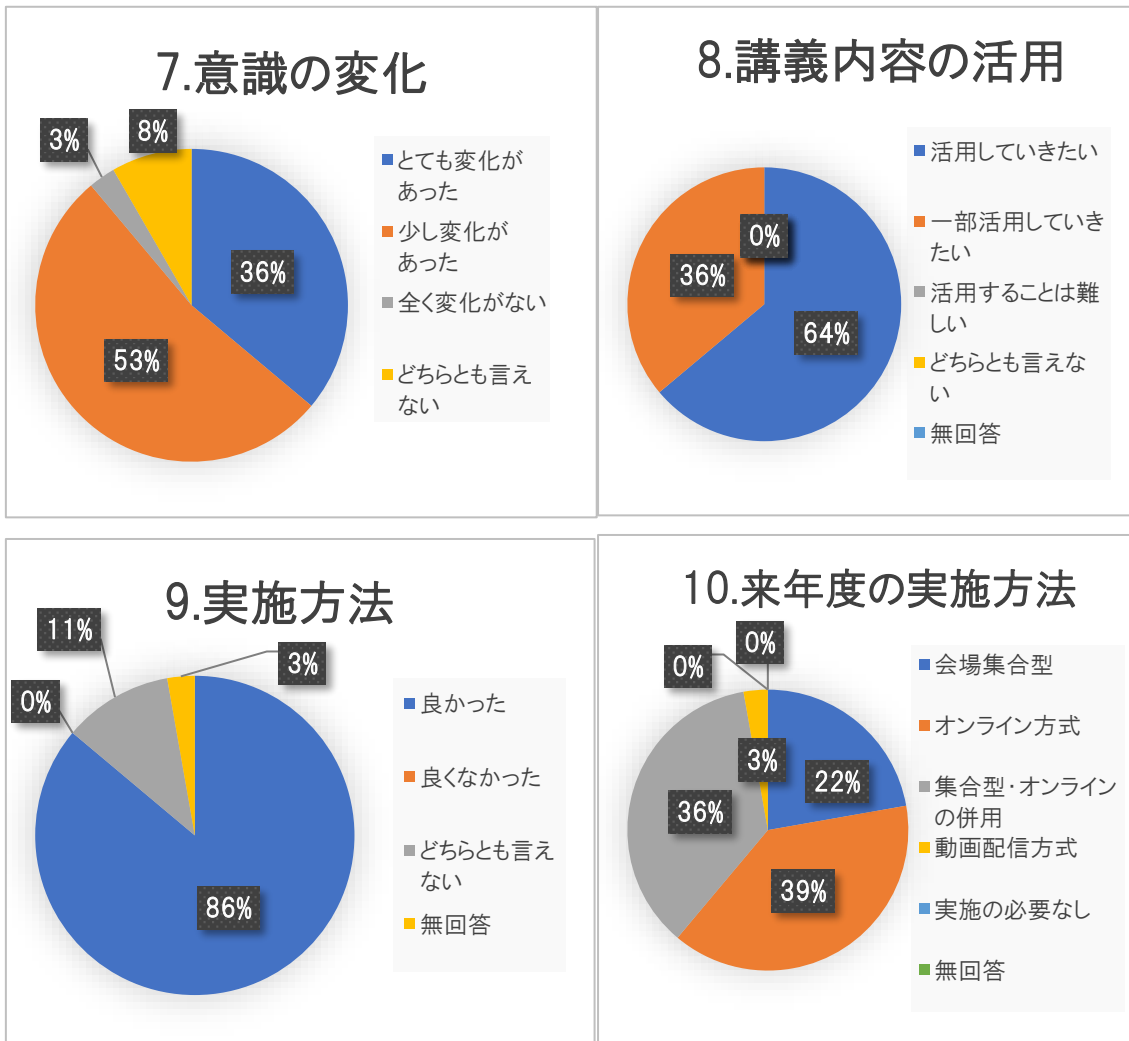
差点ですよ、などとプレゼンしていました。みんなの安全を考えようと考え、自分たちの安全意識も上がっていきます。こういった教育を一緒にしていきましょと皆さんからも提案するのも良いのではと思います。

また、教習所の利用についてです。教習所は、地域の交通安全センターだと思っておりますので、地域貢献などボランティアで協力してくれると思います。自動車学校はコースもありますし、こういうものも活用しながら、学校の先生と協力して進めていってほしいです。

これから北海道は雪の季節になります。この季節になると私の知らないような雪道や事故もあるかと思えます。1件でも事故がなくなるように、皆様にも今後の活躍というのを応援させていただきます。これで終わります。ありがとうございました。

3.アンケート集計結果





⑪.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・体験に基づいた話など。
- ・市町村独自の交通安全教室用器材の活用例の紹介。
- ・高齢者対策、運転技能について。
- ・補償行動の中の感情コントロールの具体的な方法について。
- ・高齢者教育の検討（試験のやり方）、自転車の教育（子供、親共に）。
- ・学校との連携による交通安全教育について取りあげてもらいたい。
- ・今後高齢者の事故対策。
- ・交通ボランティアは特になり手がなく、高齢化の一途をたどる一方、担い手不足解消法等あれば。
- ・学校（教員）との協力関係と構築について。
- ・各年代による交通安全の意識付けをするのにどうしたら良いのか。相手に興味を持ってもらえる話し方。
- ・人材不足の問題。

- ・公共交通のない地域問題の解消について。
- ・チャイルドシートの使い方を実践方式でしたら良いのでは。
- ・自転車、バイク等のヘルメットの推進について。
- ・自転車のヘルメット装着事例。
- ・高齢者、自転車の交通事故について。
- ・夜光反射材を有効に着用してもらうための啓発方法について。

⑫.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・飲酒運転について講習会など地元の警察の方々に講話をしていただいています。ニュースに載らない情報を知ることができます。
- ・ボランティア要員の確保のための具体例。
- ・交通安全教室で使用できるパワーポイントの活用方法の講演をしてもらいたい。
- ・インターネット、ホームページ等の活用。

⑬.本講習会の運営、スタッフについて

- ・とても良かったです。ありがとうございました。
- ・今回の講習会の運営について、見ていた側としては、特段大きな問題もなかったので良かったと思う。
- ・リモート講習会のため、モニターの関係で講師等、下からの映像が気になったため、カメラ位置等の関係で難しいところではあると思いますが、できるだけ正面からの画像でお願いしたい。
- ・良好でした。
- ・申し分ありません。大変ありがとうございました。
- ・とても良かったです。
- ・丁寧で良かった。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・大変良かった。
- ・とてもスムーズな進行でした。
- ・定期的な講習会を希望します。
- ・司会の方の進行が聞き取りやすく、気持ちが良かったです。

⑭.その他ご意見

- ・「交通指導員のなり手不足」は大変苦勞している。
- ・北海道は、車移動の方が便利な地域です。自動車利用にも交通費の支給があるべき。と考えます。今後検討願います。
- ・講習会にオンラインで参加できてよかったです。(わざわざ会場に行かなくてもよいから)

- ・学びになるものがあったので有意義な時間だった。ありがとうございました。
- ・事務局、関係団体のご協力により本年も無事受講できましたことを感謝するとともに、今後も関係団体の連携と情報共有のため、同講習会には引き続き参加させていただきますので、ご支援いただきますようお願いします。
- ・講師からのご意見、他地域との意見交換は大変参考になりました。
- ・初めて参加し、奥山先生と稲垣先生の講演で今までの意識を変えて、新たな視点を持って指導していきたいと思いました。すごく勉強になりました。ありがとうございました。
- ・高齢者の免許更新を1年にしてはどうかと思いました。
- ・高齢ドライバーの免許自主返納について、継続か返納？どちらかだけではなく、「中間の選択肢」という考えに気付かせていただきました。
- ・稲垣先生の講演はとても参考になりました。具体的な話や局地的にスポットをあてた取り組みなど、学生方に説明する際の参考にしたいなと思いました。
- ・今回の講習は、とても参考になりました。
- ・普段同じ職業の方とお会いする機会がほとんどないため、活動事例の発表はとても興味深く、お話を聞かせていただきました。大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・稲垣先生のご講演がとても面白かったです。いつもと違う角度から交通安全について調査、研究されていて、大変勉強になりました。

4.写真

【北海道ブロック】



開会挨拶 内閣府 西村参事官補佐



講演 奥山祐輔 先生



講演 稲垣具志 先生



活動事例発表



意見交換会



意見交換会

東北ブロック

1.プログラム詳細

9月6日(火)

時間	分	内容
10:30～11:00	30	受付
11:00～11:10	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(岩手県)
11:10～12:10	60	講演① 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子 「子どもの特性と交通事故防止」
12:10～13:10	60	昼休憩
13:10～14:10	60	講演② 黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部 ゼネラルマネージャー 奥山 祐輔 (日本交通心理学会／主任交通心理士) 「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～
14:10～14:20	10	休憩
14:20～15:20	60	活動事例発表
15:20～15:55	35	活動事例発表に関する意見交換会
15:55～16:05	10	講評(コーディネーター) 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子
16:05～16:15	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:15		終了

2. 講義等の記録

■ 講演①

特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長

宮田 美恵子

「子どもの特性と交通事故防止」

1. 子どもの交通事故状況

【千葉県八街市での事故】

2021年6月28日に千葉県八街市の通学路において、飲酒ドライバーが運転するトラックによって、ルールを順守して歩いていた小学生の死傷事故が発生した。

【上記エリアの通学路における交通環境】

・子どもたちが毎日使用する通学路であるものの、ガードレールなど子どもを物理的に守るものはなく、白線すら引かれていなかった。

・過去に同じエリアで同様の事故が起こっており、改善要求が挙がっていたにも拘わらず、通学路の点検を行っても、いわゆる「危険な道路」としてカウントされていなかった。

⇒この道路での事故防止方法は、幼い子どもや飲酒ドライバーの規範意識や交通マナーに任されていたことになる。とりわけ通学路において、子どもの命を守るには、ヒューマンエラーも視野に二重三重の対策が必要であり、心理的な対策と併せて物理的な対策が不可欠。

通学路の点検



1. 歩車分離(歩行者と車の分離)

ガードレール・ガードパイプ・ポストコーン等の設置、縁石をつける、歩道を高くする・外側線の引き直し、歩行者側を広く取る、外側線の外側をカラーリングし巻き込み防止・進入制限・時間制限する

2. 歩車共存(歩行者と車の共存)

渋滞回避の抜け道防止「ゾーン30」・原則路面標示や立て看板の設置・交差点のカラー舗装・カーブミラーの設置

【歩行中の死傷者数】

7歳（小学1・2年生）の死傷者数が最も多い。



⇒一般的には交通環境に不慣れなどの理由が挙げられるが、それだけで看過することはできない。これまでの取り組みなどを振り返り、改善していく必要がある。交通環境の整備や安全教育において、子どもの発達段階をふまえた子ども目線での対応、また、障がいのある子どもについて十分に考慮されているとは言い難い。むしろ、障がい児者は、事故の被害に遭いやすさをもっている。

2. 安全の発達課題と指導

【安全の発達課題】

幼児は、大人への基本的信頼感をよりどころに、身近な人や周囲の物、自然などの環境とかわかり、興味・関心の対象を広げ、認識力や社会性を発達させていく。また、子ども同士で遊ぶことなどを通じ、豊かな想像力をはぐくむとともに、自らと違う他者の存在や視点に気づき、相手の気持ちになって考えたり、時には葛藤をおぼえたり、こうした体験を通じ、道徳性や社会性の基盤が育まれていく。

学童期の小学校低学年の子どもは、幼児期の特徴を残しながらも、「大人が『いけない』』と言うことは、してはならない」といったように、大人の言うことを守る中で、善悪についての理解と判断ができるようになる。また、言語能力や認識力も高まる。このような発達段階にある子どもの安全課題は、「人として、行なってはならないこと」についての知識と感性の涵養や、集団や社会のルールを守る態度など、善悪の判断や規範意識の基礎の形成（文科省）。

【幼児の行動特性と対応】

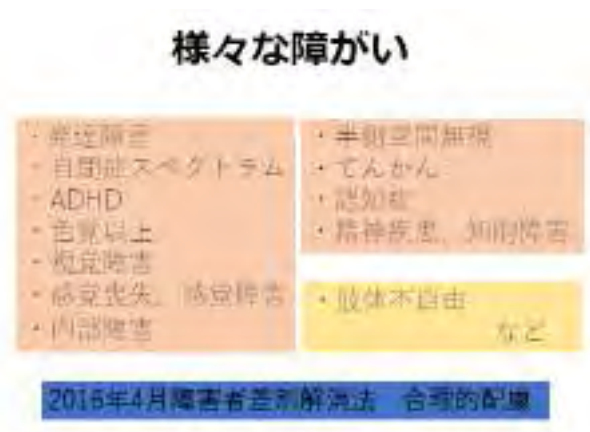
- ・ 1つのもの、ことに注目する。
- ・ 応用はできない。

- ・気分によって行動が変化。
- ・抽象的な言葉は伝わらない。
- ・大人に依存する・真似をする。
- ・物陰で遊ぶのが好き。

これら特性をふまえた対応を講じる。幼児期には大人が先回りして対策を取るとともに、易しい言葉で繰り返し教えていく。

3. 障がいのある子の交通安全

【様々な障がい】



⇒外見上、障がいが見えない、注意を向けてもらいづらい障がいもある。課題として、交通安全教育・教室などの機会が少なく、教えられていないことも多い。

【障がいのある子どもの特性と対応】

- ・ルールの理解が難しい。
 - ・暗黙の了解は通用しにくい。
 - ・抽象的な表現は理解しにくい。
 - ・言葉を文字通り解釈することが多い。
 - ・いきなりさわると、つかまされるとパニック。
 - ・交通ルールにこだわりトラブルになる、などの傾向がみられる。
- 障がいによっては、これらの傾向が見られる。

【何らかの障がいがあると思われる子どもの事故に遭遇した場合】

下記のような様子やコミュニケーションの不調和に気づいたら、

- ・言われたことを繰り返し言う。
- ・小さいとは言えないケガをしているのに平気な顔。

- ・たいしたことないのに大騒ぎ。
- ・重大事なのにニヤニヤ ふざけているように見える。
- ・感覚過敏。(音・光・におい・触感)

⇒障がいによっては、言われたことを繰り返す傾向にある。「大丈夫?」と問いかけると、「大丈夫」と返答してしまう。) そのため、問いかけの際に少し違いを感じた場合には、繰り返しにならないような聞き方をするなど工夫をすることが必要。

例:「痛いところはどこ?」「痛いところを指さしてみて」

【ドライバーとして障がいがある子への注意】

下記のような傾向があることを認識しておく。

- ・急に飛び出す。
- ・信号は見ているが、それ以外目に入らない。
- ・左右を確認するが、渡るときには車が接近してしまっている。
- ・同じところで何度もころぶ。
- ・急に立ち止まる、しゃがみ込む。
- ・悪天候時に危険が高まる。
- ・標識などが理解できない。

⇒子どもたちの発達の特性をふまえ、家庭や地域、学校などでの体験的な学びを繰り返し行なっていく。また、道路環境においては、障がい児者への合理的配慮を行うことも必要。

4. 交通体験学習と道路点検

【交通3原則+1の具体化】

とまる: 曲がり角のたびに止まる

まつ: 1~2歩下がって待つ

歩道は歩道奥で待つ

みる: 見る⇒ 視る

わたる: 青信号は赤信号

アイコンタクト

⇒子どもと一緒に、交通安全体験学習として実際に通学路・街中を歩き、危険と安全な歩き方を教える。同時に危険個所に気づき、たとえば、子どもの目線(110cm)から見て視界を妨げる物がないか、ある場合にはその上での対応方法を教えなければならない。子どもたちは、安全のために正しい交通ルールを学ぶ一方で、それを実行できる交通環境になっていることが重要。通学路だけでなく、生活道路において、そもそも環境に問題が取り残されたままになっている。子どもへの安全教育とともに、大人による環境改善が急務である。

■講演②

黒井産業株式会社 黒井交通教育センター KURO-TEC 本部

ゼネラルマネージャー 奥山 祐輔

(日本交通心理学会／主任交通心理士)

「高齢者の交通安全対策」～補償行動による事故防止のススメ～

※10 ページの北海道ブロックでの講演録参照

■活動事例発表

岩手県交通安全母の会連合会 理事

菊池 輝子

遠野市の母の会の活動紹介をさせていただきます。母の会は昭和45年に設立されました。11の母の会で構成され、会員数は約1万人となります。活動の一環をご紹介しますと、飲酒運転絶滅啓蒙運動、愛の一声運動&冷茶サービスの街頭活動、これらの多くは安全協会さんと一緒に取り組んでおります。

飲酒運転絶滅啓蒙運動は母の会独自で取り組んでいる事業で、昭和62年からやっております。全世帯へ署名用紙を持っていき、集まったものを遠野警察署長さんに提出するというをずっとやっております。これはお母さんたちが飲酒運転を絶対出さないという意気込みで始まった自慢できる事業のひとつです。署名書は警察署に提出し、昭和62年頃では6千人位でしたが、最近では1万人位提出できるようになっております。

あとは街頭で冷たいお茶や、町の特産のりんごの花など、地元でとれた野菜などを運転手さんにプレゼントするようなサービスをしております。これは毎年どの町でもやっております。お茶以外に何かいいものはないかと考えてそれぞれの方法で、頑張っている活動の一つでございます。

高齢者の交通事故防止対策として、夜光反射材の物品の販売をしております。反射材がついた手袋だったり、タスキなど色々です。またチラシを渡し、交通安全を守ってね、声かけをしながら活動しています。夜光反射材の貼付活動として、ショッピングセンターにいらっしゃったお客さんの足につけてあげたり、最近はバレンタインデーの日に合わせて、チョコレートと一緒に渡して靴に張ってあげたりしています。

高齢者宅の家庭訪問ですが、反射材のついた買い物バックや、手づくりの物などに添えてチラシも渡していますが、渡すだけでは読んでくれないので、しっかり説明して気をつけてねということを会員のみんなが徹底しています。

馬っこ交通安全パレードですが、遠野は馬が多いので馬産地としても知られていて、馬を利用して交通安全活動をしようとなりました。小学校1、2年生の児童が対象となり、母の会のみんなが手づくりのグッズを作ります。馬に乗った子供たちが会場に来られた方に声かけをしてやっております、10年ほど続けております。

12月には飲酒運転絶滅の一環として、交通指導員さんも一緒に駅前の飲み屋さんへ行き、飲酒運転しないでくださいと呼び掛け、代行車を使うようにしてくださいね、と声かけをしております。

「交通安全は家庭から」のスローガンを元に、事故をおこさないをモットーに活動しております。全国の事故の現状をみても、高齢者の事故が多発していることがあるので、今後の活動は最も重要であると思います。遠野は高齢者がとても多く、運転している人も多いです。

私たち会員も高齢化が進んでいます。後継者育成が大きな課題になっております。長年やってくれる人がほとんどいないです。自分の任期がすめば終われば代われるというふうになっており、どのように若い人たちに繋いでいけばいいのかなと大変に不安に思っております。

しかし、まずは安心安全の遠野を目指し、会員一同いいアイデアを取り入れながら、今後も頑張っ活動していきたいと思ひます。最後になりましたが、東北ブロック各県の活動にかかわる皆様の益々の活動の繁栄と健康を祈念申し上げ、大変粗末な発表でございましたが、最後までお聞きいただきましてありがとうございます。

青森県交通安全母の会連合会 副会長

成田 さなえ

青森県交通安全母の会連合会に所属してあります、大間町交通安全母の会の成田と申します。よろしくお願ひいたします。大間町交通安全母の会は昭和54年3月23日に設立されました。今年には43周年を迎えてあります。団体会員と個人会員とから成り立っております。団体会員は、小中高のPTA、それから婦人会となっております。

会員数としては300人以上でございますが、実働となりますと1割の約30名程度となっております。会員の高齢化は否めませんがやる気と元気いっぱいでございます。

そして、会長として私が一番初めに取り組みましたのが、個人会員の勧誘でございました。知り合い一人一人に声をかけて、減ったり増えたりしながらようやく両手になりました。会員仲間が増えることはありがたくうれしく、力強いことでもございます。

私たち母の会の活動と致しましてはマスコット作りと配布というのがございます。ここ3年ほどはコロナで休業中ですが、会員一同でマスコット作りを続けてあります。フェルトや、ちりめんの生地を使ったりと会員の皆さんのアイデアは尽きることがありません。マスコットは春4月交通安全祈願祭の時に地元の寺院でご祈禱してもらいます。9月秋の交通安全運動に国道7号線の一角で警察署にお力添えをいただきながら、ドライバーに安全運転をお願いいたしますと声かけをし配布いたします。数としては80個から100個くらいになります。必ずその年の交通安全スローガンをつけてあります。今年も9月の運動期間中に実施する予定であります。

高齢者とのふれあいと致しましては、老人クラブの芸能発表会だったり、町の福祉大会の時に、反射材の紹介と配布、母の会は少しだけですが、歌ったり踊ったり劇をしたりと楽しくふれあえたり、少しでも興味を引く場面を作ります。

反射材をつけてファッションショーもどきもいたしました。玄関で反射材を付けてあげると、これ去年のだよ。とか前にもらったやつだよ。とかしっかりつけてもらっていることに嬉しくなるひとときでもございます。

また高齢者世帯訪問ですが、個人情報もあり、地域の民生委員や警察署員の方々のお力をお借りして実施しておりましたが、ここ数年はコロナの関係で大勢での訪問はやめ、町内の役員さんが2名ほどで訪問させて頂いております。

また、子供達とのふれあいといたしまして、春の交通安全活動は新入学児童の交通安全に合わせて行い、会員それぞれに自宅付近に都合のよい日に立ってもらい、おはよう、気をつけて行くんだよ。と声かけをお願いしております。

町内には小学校・中学校1校と小さな町ですが、子供達には安全安心で通学できる町であってほしいものです。そんな願いを込めまして新1年生には小中学校とも交通安全グッズとティッシュペーパーが入るファイルを差し上げております。中学生になると自転車通学が増えますので、去年は自転車に関するパンフレットを配布いたしました。

広報活動といたしましては、年4回の交通安全運動キャンペーン中、5日～1週間程度、「町内の皆様、只今交通安全運動が行われております。歩行者も車を運転する人もみんなが交通ルールを守り、事故のない明るいまちづくりにご協力ください。ドライバーの皆さんは子供や高齢者に思いやりのある優しい運転を心がけてください。』と会員を乗せた広報官の出動です。

今年ももうすぐ秋の全国交通安全運動が始まります。町内隅々までとはいえませんが、広報活動を頑張るつもりでおります。

母の会活動の総括といたしましては、これといった目立つ活動はありません。しかし会員一人一人、「交通安全は家庭から」、そして家族町民を交通事故から守る母の愛をスローガンのもとゆっくりとでもしっかりと歩み続けております。

コロナ終息の気配はまだまだみえませんが、その時々、場面に応じて少しずつ創意工夫をしながら、コロナにも向き合いながら、家族が加害者に、被害者にならないよう、そして地域に暮らすすべての方々が、そうでありますようにと願いを込めて、個々では限りある力ではありますが、力を、思いを繋ぎ合わせ、それぞれが健康で楽しく活動できるように、私たち大間町母の会はしなじく、これは津軽弁でございます。粘り強くめげることなくというような意味で、交通安全を伝え続けて参りたいと思います。

小さな町の小さな活動を青森県へ東北へと、繋ぎ紡ぎながらみなさんも一緒に交通安全運動を頑張っていきましょう。ありがとうございました。

由利本荘市交通安全母の会 会長

今野 日登美

由利本荘市交通安全母の会の活動報告を発表させていただきます。交通安全母の会会員の今野と申します、どうぞよろしく願いいたします。

主な活動は、季別の交通安全運動の協力、子育て・高齢者世帯訪問事業、交通安全マスコットの作成と配布、交通安全市民大会での大会宣言です。

初めに季別の交通安全運動の協力ですが、春夏秋冬の交通安全運動の際、交通自動車に乗車し交通指導員の方と共に巡回及び広報や保護者への呼びかけを行なっております。

続いて、子育て・高齢者世帯訪問事業です。秋田県交通安全母の会連合会で実施している本事業に参加しています。対象の世帯へ啓発物品を配布し交通安全意識の高揚と交通事故の防止を図ることを目的とする事業です。

子育て世帯へは市内の保育園、認定こども園の年長児童を対象にしております。昨年令和3年度は479世帯へ配布しました。

高齢者世帯へは直接訪問もしくは施設等での啓発物品の配布をしております。前回令和元年度240世帯へ配布しました。コロナ禍の為、この3年高齢者世帯訪問事業は実施せず、子育て世帯訪問のみ実施しております。また、保育園等への訪問は控え、郵送での配布とコロナ対策を講じて実施しております。

続いて、交通安全マスコットの作成と配布についてです。こちらは反射材を用いてマスコットを作成し、市民の方へ配布することで、交通安全の啓発を行う事業となっております。例年キューピー人形や反射材の折り鶴の作成など、改良を加えながら、作成をしております。令和元年度は各地区の母の会会員を集めて、反射材三角すいを300個作成しました。作成した反射材を市内の商業施設や道の駅等で市民の方へ配送しました。鞆につける方もいっしょに喜んで頂きました。

最後に、交通安全市民大会での大会宣言です。例年8月の初旬に市民を集めて交通安全市民大会を市で開催しております。功労者の表彰等を行う大会であり、最後に総まとめとして大会宣言を行います。この宣言を母の会で担当しており、大会の最後を飾ります。

最後にまとめです。秋田県また由利本荘市でも高齢者の事故が依然として多い状況です。また令和3年度には市内で女子中学生がバスに轢かれて亡くなる大変痛ましい事故が起きてしまいました。

秋田県交通安全母の会連合会で活動目標として掲げる、「交通安全は家庭から」を合言葉に、外出前に「車に気をつけてね」と言ったひと声をかける、日常での意識の積み重ねを大切に、交通事故を防ぎたいという思いがあります。

またこれからの季節日没も早くなりますので、反射材の配布を通して防ぎたいです。皆様ご清聴ありがとうございました。

山形県交通安全母の会連合会 会長

加藤 澄子

交通安全母の会米沢市連合会の活動について発表します。交通安全母の会米沢市連合会会長加藤澄子です。どうぞ宜しくお願い致します。

交通安全母の会米沢市連合会では「交通安全は家庭から」のスローガンのもと、交通安全に果たすべき母親の役割と責任を自覚し活動しています。

重点目標として「愛の一声運動」です。しっかり止まってはつきり確認、を掲げ、家族が出かける際「行ってらっしゃい」「気をつけてね」と笑顔で送り出し、交通事故を起こさないよう遭わないように愛の一声運動を実施しています。

主な活動について紹介します。春には新入学児童へ連絡帳袋、新4年生には反射シールを贈呈しています。各期の交通安全県民運動に合わせて、関係機関団体の主催する交通情勢に対応した啓発活動に積極的に参加し、交通安全意識の高揚を図っています。主に市内スーパーの出入り口で街頭啓発活動をしています。

また夏には事故防止を図るため、「おしょうしな交通安全湯茶接待」と題して、道の駅米沢の利用者に対して交通安全啓発チラシや、ドライブの疲れを飲み物などで癒していただくように、山形つや姫の玄米茶、米沢牛入りサラミなどを配布しています。コロナ禍前は一台一台車を止めて、愛の一声をかけて啓発していましたが、現在は一声をかけるのが難しいので、道の駅正面玄関前にてマスク越しでも満面の笑顔で、利用者に対して交通事故防止を願って啓発しています。

余談ですが、「おしょうしな交通安全湯茶接待」とありましたが、その中のおしょうしなは米沢の方言で意味は「ありがとう」、お礼のタイミングで使います。

秋には、高齢者の交通事故防止推進強化旬間に合わせて関係団体と連携し、交通事故防止活動の重点対象とする地区を選定し、その地区内の高齢者宅を訪問し、交通安全啓発チラシを手渡し、会話する中で履物や傘、自転車などに夜光反射材を貼付します。それと同時に市内17支部の推進員がご近所の高齢者宅を訪問して、重点地区同様に夜光反射材普及活動し、交通安全に対する知識と意識の高揚を図り、併せて高齢者の交通事故撲滅祈願署名を集めています。ここ最近ではコロナの影響で重点地区を選定しての啓発活動はできておりませんが、各支部の高齢者宅訪問啓発活動は感染対策をしっかりとできる範囲のみ実施しています。訪問が難しい場合は高齢者宅にポスティングして高齢者事故撲滅に努めています。

次に、交通安全啓発企業訪問について米沢地区安全運転管理者連絡協議会と共催で毎年秋に市内企業5社を訪問、母の会の活動を伝えるとともに交通安全メッセージを読み上げて交通安全を呼びかけ、交通安全啓発物品やチラシを従業員へ配布し、企業内での交通安全に対する取り組みなどを伺い、交通安全意識の高揚を図るとともに、企業名入のぼり旗を2種類2本ずつ計4本寄贈しています。それぞれ企業独自で交通安全に対する取り組みをしており、例えば朝礼で独自の交通安全ルールブックを社員で読み合わせをしたりと企業努力が伝わり、この企業訪問で一緒に交通事故撲滅に向けてより一層の安全管理に努めていきたいと思っています。

次に山形県の事業であるハートフルメール事業についてですが、次代を担う子供達を悲惨な交通事故から守るため、校外生活においても行動範囲が広がる小学校4年生の児童対象として、高齢者宛に児童の近況報告など交通事故防止や交通安全に関する文言を添え

た交通安全メッセージはがきの作成を通じて、児童及びはがきを受け取った高齢者の交通安全意識の高揚をもって、児童と高齢者の交通事故防止を図るものです。

米沢市では、市内 16 小学校の 4 年生児童が自分の祖父母に対し近況報告や交通安全を呼びかけるメッセージはがきの作成をしています。そして作成したはがきを集約し、各地域において広報や展示することにより、児童はもとより地域内の交通安全思想の普及、受け取った祖父母などの交通安全意識の高揚を図っています。

ハガキ、宛名の書き方、送り方を知らない児童も良い勉強になりましたし、このコロナ禍でなかなか会えない祖父母への心温まるハガキで大変祖父母の方々から喜ばれています。

次に毎年 12 月に関係団体と合同で交通安全祈願祭を行なっています。秋の高齢者世帯訪問の際にいただいた高齢者交通事故撲滅祈願署名を祈願奉納すると共に、年末の交通事故防止を祈願しています。そして年一回春に母の会便りを発行しています。全世帯配布ではなく、隣組回覧ではありますが、母の会活動を市民の方へご報告させていただき、全家庭の交通安全意識の高揚と浸透を推進しています。

最後にこのような取り組みを今後も継続し、「交通安全は家庭から」をモットーに交通事故のない安全安心な街づくりを目指して活動していきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

特定非営利活動法人

日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子

宮田先生：皆様方の発表とても興味深く、聞かせていただきました。地域のそれぞれのご紹介を頂いてそれぞれの特徴をお話しいただいたので、本当に楽しく聞かせていただきました。活動も似ているところもあればそれぞれの特徴もあり、またそのお困りごとなんかもいくつか出てきたように思います。

皆様のお話をお聞きになられて、ここもうちょっと聞きたいとか、質問したいとか、どんなことでもいいと思いますが、何かありますか。

●：米沢の方にお聞きいたしますけども、高齢者宅訪問で、都市ごとに重点地区というふうに決めて歩くのか、交通事故が多いところが重点地区なのか。花巻市の場合は、モデル地区というのが毎年順番に回るのです。そこを重点地区として回るのですが、その重点地区を伺いたいと思います。

●：米沢地区では、重点地区が交通事故が多い地域というわけではなくて、その年にどの地区にしようかというのをみんなで選定して決めているので、できたら少しずつでも回りたいなと思っているのですけど、その年毎に重点地区は決めています。

宮田先生：皆様、マスコットもとても素敵なものを手づくりされておられますよね。私もずっと大事にしているので、沢山家にありますけど、アイデアに困ったりすることはないのかという事と、どんなところからヒントを得ているのか、発表された方にお聞きしたいです。

●：マスコットはなかなか作れないのですけれど、平成15年から毎年1千羽の鶴を折って、春秋の交通安全週間、高齢者宅訪問、小中学校の入学式などへ届けています。折り鶴には、愛の声掛け運動、飲酒運転根絶とか名前を付け、ぶらさげて配っています。毎年1,000~1,200羽、手作りで頭の体操もかねて会員全員で折ります。

その他、ひとつ質問させていただきたいのですが、この2年間私たちはできるだけ、コロナで大変な状況であっても中止は一切しませんでした。去年今年とコロナ禍で特に工夫して頑張ってやって成果をあげたっていう例がありましたら、ご紹介いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

宮田先生：コロナ対策をし、他の地域ではどのようなようだったかというご質問ですね。コロナ対策として、こんな工夫で行事が実施できたなど、是非お知らせください。

●：青森県では、集団での活動っていうのは行政そのものがあまり乗り気になりませんので、高齢者世帯訪問では1チーム1、2名で回るとか、できることを着々と続けています。しかし、一箇所に大勢集めての活動はできませんでしたので、残念ではございますが、規模を縮小することや参加人員を少なくするとか工夫しながらやっています。大体8割は行事を消化しているかなと思います。

●：ありがとうございます。縮小して工夫してやることは、今コロナ禍で大事なことですよね。人の命を守る活動を私たちはしているので、決して手を抜かないように、私たちも目標を掲げて、明るく楽しく健やかに笑顔を絶やさず、守るところを守って頑張ろうと。そして、継続は力、一度立ち上げた活動は、何年も何十年も続けていくことによって、地域の子供たちや高齢者の命を守る活動の大切さを、市民と共に共有してやっていくことが大事だと思います。私たちが笑顔で明るく楽しく、やらせてもらえるのは、警察署の職員の方と交通安全の市の事務局担当職員が準備をしてカバーをしてくださるからです。そういうところに私たちは感謝の気持ちを忘れないようにしたいなと日頃思っております。今後も頑張って下さい。

宮田先生：励みになるお言葉ありがとうございます。Zoomを通して素敵なエール交換ができるということも良い機会になりますね。他にご質問ありますでしょうか。岩手県の方宜しく願いいたします。

●：岩手県の母の会です。米沢市の連合会の方にハートフルメール事業について質問です。うちの地区でも子供レター作戦とって、子供たちに書いてもらったレターを街頭の人に配ったりする活動をしているのですが、学校との関係で授業の中で行なっているのか、家庭の親御さんと一緒に書いているのか具体的に教えて頂けますか。

●：米沢の場合は、各小学校にはがきを配っているのので、授業の一環としてやっていただいています。ただ、学校の担任の先生にもよるのかなと私自身感じています。やはり学校の先生とのコミュニケーションもあるのかなと思います。大きい学校、人数が多い学校は大変かなと思います。

●：同じような問題だなと思ってお聞きしておりました。とくにコロナ禍でこの3年間は、協力していただける学校も少なくなり、また職員が転勤で変わったり、働き方改革や学校の授業内容が変化するなど、今までお願いしていたことを続けていただくのが難しくなってきたりしているので、こちらでも子供会と協力して活動するなど考えているところです。参考になりました。ありがとうございました。

宮田先生：ありがとうございました。子供会と協力してやるなど継続するには考えていけないとですよ。いかがでしょうか。関連する質問でも結構ですし、全く違う質問でもいいですし、何かお困りごとを皆さんの意見を聞きたい事でもいいと思います。

●：今抱えている問題は、活動する会員の高齢化が進んでいることです。全体的にこれから活動する人たちをどういうふうに確保していくのか、そして若いお母さんたちがなかなか母の会に入ってくれない、普通の日には仕事で参加できないのが現状です。皆さんの地区での会員の高齢化は、母の会の活動に危機感を感じている状況があるかどうかお聞きしたいと思います。

宮田先生：ありがとうございます。4つの県でご発表頂いた中でのキーワードは共通していましたよね。皆さん同じ課題があつて、こんな工夫をしている、成果がでているなど、いらっしゃいませんか。岩手県の方からお願いします。

●：会員の高齢化もそうですけども、若いお母さんはほとんど働いていらっしゃいますし、日曜日でも無理な時もありますけど、私たちはそれでも会員になってほしいと、活動ができるときに参加してほしいと、あなたたちの支えがあつて私たちでしかやっていけない。花巻の場合では会員数は減ってないのです。ただ減った部分は世帯数が減っているぐらいで、会員数はそれほど減っていないのですけども、上の役職になる方が高齢からなかなか抜け出せない問題があります。色んな集まりに若い方もきてもらい、お子さんが手の離れる時が来たら、きてくれるかなという感じであります。

●：高齢化になっても動ける人達と一緒に行動して、動けない方でも家の中でも協力できるグッズを作ったり、印刷したり、新聞を作ったりそういうところに回ったりして工夫してやっています。今後、高齢化の時代を迎えるとやり方を工夫していかなければと、皆さんそこを乗り越えてやっているなどお聞きしたかったのですが、今のお話を聞いて意を強くして頑張つて工夫して活動していきたいと思います。大変ありがとうございました。

●：私もフルタイムで働きながら、この活動をしております。土日が休みなのですが、土日の休みはまたそれなりに使いたいことがあるわけですよ。だからお父さんお母さんを巻き込んでいくのは大変だなと感じております。下の年代の方へこちらから、やってみな

い？入ってこない？という声掛けで若い方へ一人ずつ一人ずつ声掛けが大事かなと思います。

宮田先生：秘訣は個人会員を一人ずつ一人ずつ誘っていくということですね。大事さが伝わっていくということですね。奥山先生より、何か質問ございますでしょうか。

奥山先生：発表を興味深く拝見させていただきました。これは僕の意見なのですが、学校に協力をお願いするというようなコメントがあったと思うのですね。例えば小学生低学年の子が高齢者の方に手紙を送ったり、安全運転を呼びかけたりするっていうのは、これは小学生にとっても非常に良い教育、交通教育になると思うのです。こういう取り組みの中でよく言われているのが、「ブラザーシップ」というような形で上級生が下級生を指導するとか、「シチズンシップ」という市民教育で、自分の安全だけではなく地域の安全も守るようにしようという取り組みをすることにより、自分の安全も高まっていきます。こういう教育は、小学校3年生ぐらいで十分、地域の安全を考えることはできると言われています。学校へはこれは学校にとっても良い教育ではないですか？と提案することも、対策にも繋がるかなと思いました。

宮田先生：ありがとうございました。学校との関わりっていうのは、先生が変わると方針が変わったり、いろんなことがあります。奥山先生からいただいたことも、是非取り入れて学校との繋がりを継続していけるといいなと思います。また、高齢化の問題は本当に難しい問題です。この課題がないという地域はおそらくないのではないかと思います。会長さん方をはじめとして、現場で何年も頑張っていらっしゃる方々の実感のこもったいろんなヒントを頂けたのかなと思います。本当に岩手県のこのフロアとオンラインによって良いやり取りができたかなという風に思いました。ありがとうございました。

■講評

本日は沢山の皆様方から様々な意見を頂戴し、私の方からほんの少しだけですが、お話しさせていただきたいと思います。

まず発表頂いた4名の方々、本当にありがとうございました。地域の色んないいところですか、こんな活動されているのだと知ることが出来ました。

まず初めに岩手県の遠野の菊池さんの発表ですが、遠野の活動で頭に残ったのが「我が家の誓い」っていうのはこれオリジナルだったことでしたよね。とっても大事だと思いました。「交通安全は家庭から」、ということで家族のまずは一番小さな単位で確認をし、それをプリントにして貼っておくことは、大事ですよ。忘れないで確認できますから。とても良いアイデアだなと思いました。

それから、今皆さんがしていらっしゃるスカーフも、タスキやジャンパーだとちょっとなという方にも良いなと感じました。

それから、「馬っこ交通安全パレード」っていうのも、その土地の大事な物を大事にしながら、子供達に交通安全教育をするという、次世代への子の繋がりを感じられ良いと思います。

青森県の成田さんの発表ですが、「しなじく」粘り強くめげることなくこれはもう本当にこのコロナ禍にぴったりの言葉だなという風に思います。

やはり今日のキーワードは続けるっていう事だったかなと思いました。コロナ禍ですが、それでも皆さん方が活動を縮小したり、人数を減らしたりしながらも、続けていく。会員が仮に減っていったとしても、また次の世代が育ち、次に繋がっていきますよね。何よりも続けていくということが大事だという事を本当に皆さんと確認できたのではないかなと今日感じました。また、やっている皆さま方ご自身が楽しくやられているのが、続けていくことの秘訣なのだろうなという風にも思います。ありがとうございました。

秋田県の今野さんよりご発表、ありがとうございました。やはり目を引いたのは、マスコットですね。本当にアイデアが毎年毎年変わっていて、手作りはとても心がこもっているので、貰うととっても嬉しく、大事にしたいくなる気持ちはすごくよく分かります。車や色々なところにつけ、作ってくださった方の願いや、気持ちが伝わってきて大事にしてもらえるのだろうなと思います。それによって安全が守られる。一つ一つ心を込めて作っていらっしゃるのが資料の写真を見ても伝わってくるようで、とっても素晴らしいなと思って拝聴しました。ありがとうございました。

山形県の加藤さんからご発表いただきました。ありがとうございました。4年生に反射材を贈るというのは、1年生の時に差し上げたものをだいぶ使い込んできたのでここで心機一転みたいなそういう感じなのでしょうか。小学生の子供達が交通安全の活動を見たり、自分達も反射材をいただいたりして、育っていくことだろうと思います。

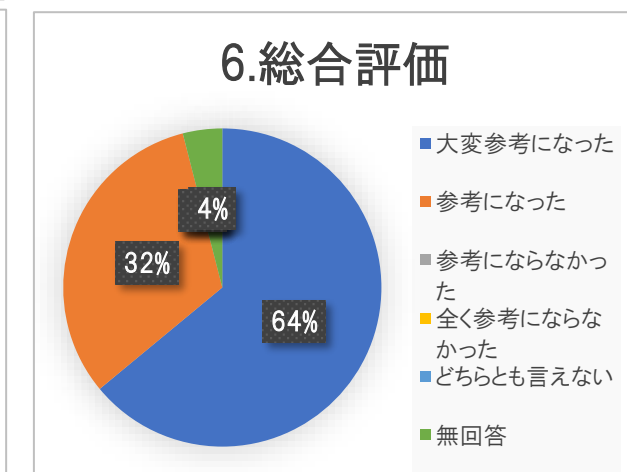
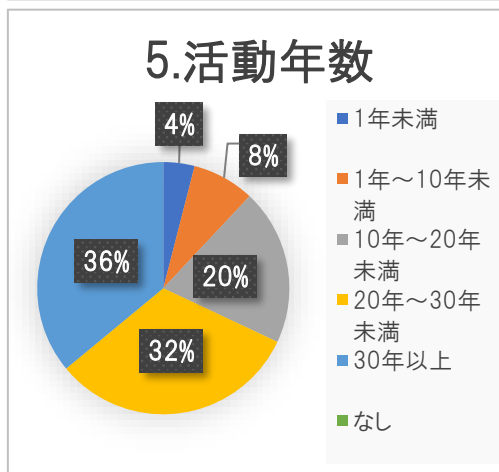
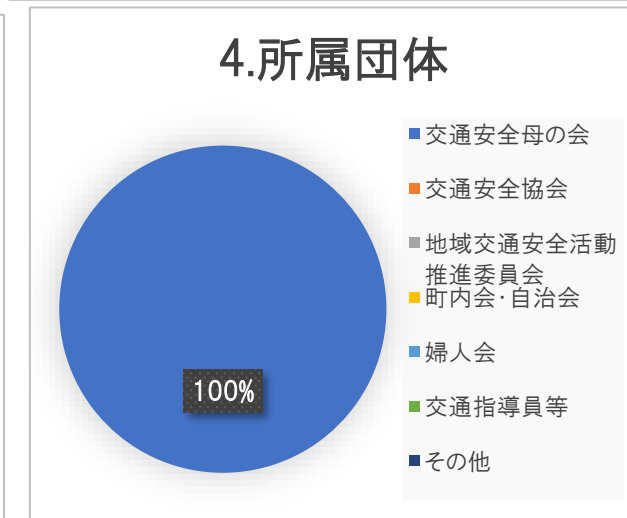
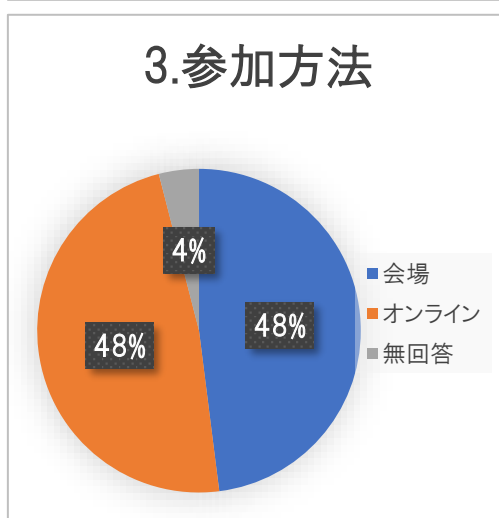
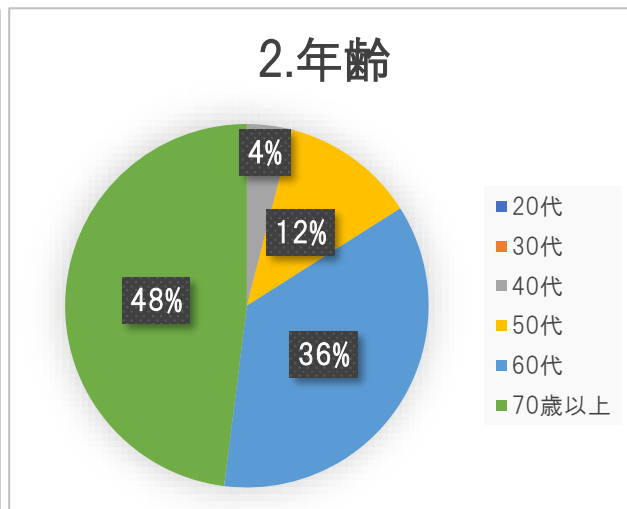
それから企業にのぼり旗を4本寄贈するのは、きっと色々な工夫をしながらやっていらっしゃるのだろうなと思って拝見しました。ハートフルメールも、色々質問が出ましたけど、とても関心をいただいたのだろうなという風に感じました。

皆さんとのディスカッション中に出てきたのが、続けるっていう事だと思います。是非皆さま方もこれからもそれぞれの活動を工夫しながら、続けていっていただけたらいいなと思います。やはり、続ける時には協力者を得ることですね。先ほども学校との関わりや、警察官とか市の方が協力してくれるという話もありました。是非困りごとはそういった方々の協力も得ながら、皆さま方だけで抱えずに、共有してやっていけるといいなという風に思います。

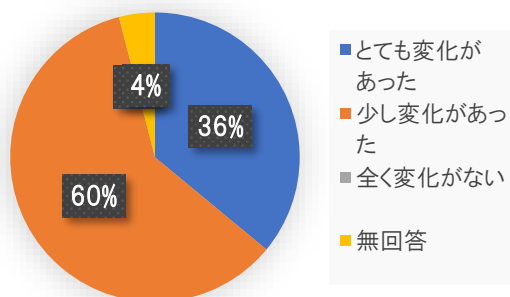
また、高齢化についてですが、みなさんがやっていらっしゃる通り、できる時にできる人ができることを楽しみながらやること。楽しみながら無理なく、今やれるのは今やれることをとにかく無理しないってことですね。楽しみながらその時できる人が、そのことをやればいい。日曜日しかできない人は日曜日に何か違う形でやっていただくってことで十分です。資料で会員会費だけ払ってもらっています、とありました。会費だけの会員。こ

れも私はとてもありだと思ふのです。会費だけでも、出来る事のひとつです。今は実働できないのだけでも、こういう協力ならできるよっていう人にとっては、それが活動になりますので、いろんな形の参加ってあっていいと思います。そんな風に活動をしていただけたらと思います。

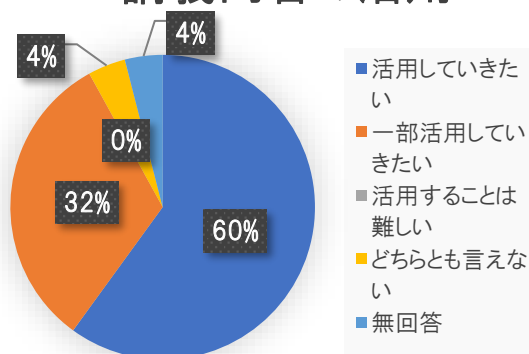
3.アンケート集計結果



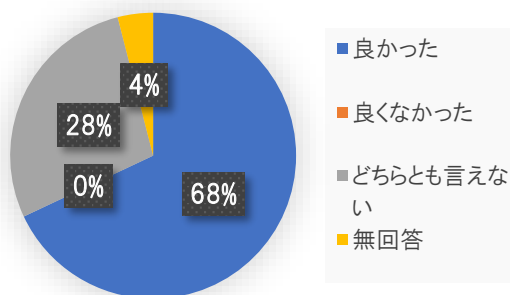
7.意識の変化



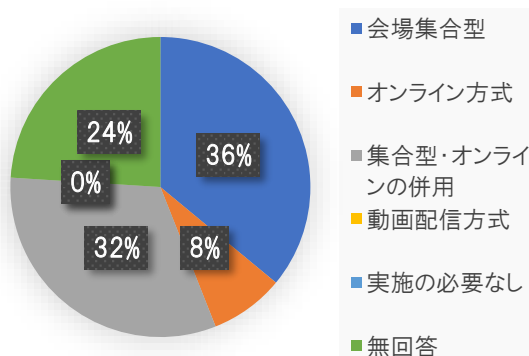
8.講義内容の活用



9.実施方法



10.来年度の実施方法



⑪.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・最近、幼児の予想もつかない死亡事故があります。大人はなぜ子供の事、命を守れなかったか。
- ・サポカーや自転車の説明、具合が悪くなくても側道に寄ってくれる車等、新しいエコカーの紹介もしてほしい。
- ・子供、高齢者に対する行動への対応等、何回同じのでも良いのでやってほしい。
- ・飲酒運転をなくすための知識の講演等、アルコールの体内での消化時間、個人差はあると思うが、家庭の中で分かりやすく話し合う講演、資料があれば良いと思います。
- ・手作りグッズが数か所から出ていましたが、私共にもできるキットがあればそのお知らせもしてほしい。運転免許更新時等の注意点や取り組み方、75歳以上の詳しい条件等を勉強し高齢者に伝えていく方法。
- ・実際の高齢者が受ける免許更新時の講習など体験できるのが良いのではと思います。
- ・高齢者の免許返納について。
- ・どうすれば交通事故がなくなるかという事を徹底的に考えるという事。

⑫.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について。

- ・子供は国の宝であります。親、家族だけでなく、皆で子供の事故に、命を奪う遭遇にあわないよう守る為に議論がもっと必要です。
- ・今はコロナ禍で無理かも知れませんが、高齢者が何メートルの横断歩道を渡る時間とか目が衰えてくると風景がどのように見えるとか、体験型の講習があれば良いと思う。
- ・DVD等での啓発も可能かと。
- ・同じような活動をしている状況なので継続していくという事が大事だと思いました。

⑬.本講習会の運営、スタッフについて

- ・意義ある講習会でありました。
- ・講師はマイクから離れると声を拾えません。奥山先生の最後の発言が聞き取れませんでした。ピンマイク等のご検討をお願いします。
- ・トラブルにも対処していただき、スムーズに進行できてよかった。
- ・6県の活動発表が聞ければよかったと思います。時間オーバー（発表時間）が気になりました。
- ・オンラインでもスムーズに会議ができてよかった。
- ・まずまずだと思います。
- ・対応大変良かった。
- ・スムーズな進行、講演ありがとうございます。
- ・コロナ禍で大変な中、注意して運営いただきありがとうございました。
- ・司会者が早口で聞き取れない場面がありました。

⑭.その他ご意見

- ・バスに置き去りにされて命を落とした痛ましい、残念な事故がありました。保育する立場の初歩的なミスです。どこでも起きるような気がします。子供達の命は、親である父・母の会で守ります。
- ・11月頃に開催してもらえれば助かります。（春から秋にかけて鬼祭期のため）
- ・活動事例発表は、大部分が時間を守ってくださったので、例年より意見交換ができ有意義だった。
- ・コロナ禍であっても、それぞれ工夫しながら活動を継続していることを知り、励みになりました。他の地区の活動を知ることはとても参考になります。
- ・できれば、岩手会場の状況をもっとみることができれば、参加したというイメージがとれたのではないのでしょうか。
- ・午前、午後の講演は大変興味深く、大変参考になりました。残念だったことは講師の方がスクリーンに寄って行くため、音声が入らなかったことでした。

- ・これからは、リモートでの会議・研修は増えてますが、各県へ参加枠をもう少し増やす（やや広めの会場の確保）ことで、会場の参加を希望します。
- ・広く会員に聞かせたかった。とても分かりやすかった。話のテンポがとても良かった。
- ・私は会場だったので、講師の話が実際に見て聞いて良かったが、オンライン参加の方はどうだったのか。それによって、今後の実施方法を考えていただきたいと思います。
- ・スタッフの皆様、準備から色々ご苦労様です。ありがとうございます。楽しい講演会でした。久しぶりに皆さんと再会できたのが嬉しかったです。お疲れ様でした。

4.写真

【東北ブロック】



開会挨拶 内閣府 西村参事官補佐



講演 奥山祐輔 先生



講演 宮田美恵子 先生



活動事例発表



意見交換会



意見交換会

関東・甲信越ブロック

1.プログラム詳細

11月9日(水)

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:45	15	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(神奈川県)
10:45～11:55	70	講演① 東京都市大学 准教授 稲垣 具志 「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」
11:55～12:55	60	昼休憩
12:55～14:05	70	講演② NPO 法人交通事故後遺障害者家族の会 佐藤 昌史(東京都立小金井工業高等学校 主任教諭) 「交通事故被害者家族の視点から」
14:05～14:15	10	休憩
14:15～15:15	60	活動事例発表
15:15～15:55	40	活動事例発表を元にした意見交換会
15:55～16:05	10	講評(コーディネーター) 特定非営利活動法人 日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子
16:05～16:15	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:15		終了

2.講義等の記録

■講演①

東京都市大学 准教授 稲垣 具志

「自転車事故の当事者とさせないために伝えるべきことは？」

※14 ページの北海道ブロックでの講演録参照

■講演②

NPO 法人 交通事故後遺障害者家族の会

佐藤 昌史（東京都立小金井工業高等学校主任教諭）

「交通事故被害者家族の視点から」

平成 27 年 3 月●日●●時頃、子どもの高校卒業式の夜、主婦の運転する車による過失運転致死傷で事故直後に心肺停止になり、偶然に交差点で信号待ちをしていた目撃者の方が心配蘇生を 3 分、4 分間行い、命を繋いでくれました。思い出しながら話すと、涙が潤んできますが、事故から 7 年、これまでの親の心情や命の駆け引きの現場から何を感じたかをお伝えできればと思います。

子どもの事故の翌日、自分が勤める高校の卒業式がありました。私の職務である都立高校教員は職務命令を発せられた卒業式には必ず参列しなければなりません。自分の子どもが生きるか死ぬかの瀬戸際の中、仕事に行かなければならない板挟みに非常に苦しみました。事故直後、子どもはその夜から集中治療室に入り、死の断末魔と言える身体の動き、うめき声、異常な脈拍や心拍数、血圧等の数値を示しており、いつ死が訪れるか分からない状態が約 3 週間続きました。その後、異様な雰囲気意識を取り戻しましたが、事故のフラッシュバックを繰り返し、縛り付けられたベッドの上で暴れながら過ごしました。しかし「暴れる容態」は他の入院患者の混乱を招き、追い出されるように転院をしました。これが急性期を終えた時になりますが純粋に容態が回復したものではありません。

回復期に入ること転院先はリハビリテーション病院です。警察はこの頃、入院中の病院内で供述調書を作成したのですが、子どもは脳損傷で記憶障害がある。さらに呂律も回らず語彙力にも欠けた状況で調書作成は「死人に口なし」同然と思える気持ちでした。そのような状況の中でも刑事裁判は進むので、加害者の供述で作られた捜査資料等調書の嘘を暴き、真実を探すことの被害者家族の労力と苦しみがあります。これは本業の仕事をしてながら両立させることは大変なことでした。

次に、重度後遺症被害者は 3 度殺されるかも知れないということです。まずは、1 度目は現場での医学的な「死亡」です。我が子は幸運にも命をつなげることが出来ましたが心肺停止は約 4 分間あり、この間は「死亡」しました。2 度目は障害を持たされた身体の不自由さ自覚する時です。自身が障害と向き合う恐怖からの「絶望死」いわゆる希死念慮です。子どもはリハビリを 1 年やったところで自殺を数回企てました。ある時、病院から連絡があり「すぐに病院へ来てくれ。お子さんが死ぬ準備をした。非常に危険な状況です」と連絡がありました。子どもは、リハビリをしていく中で思うように手足の動きが戻らない。目も見えなくなり、現実絶望という感情を持っていました。その後、私は朝から晩まで子どもに付き添うことで子の支えに努め、命を守ることが出来まし

たが、その代償は自分が教職を約3年間離れ休職し、仕事の夢を失い、経済的にも損失が生まれました。最後に、3度目に与えられものは怒りを持つ精神的苦痛と、次に述べる内容です。これは民事訴訟において賠償金減額ねらいの偽りの主張です。重度障害者にされ、労働力や生産性を奪われた者への賠償金は生きる上での命の対価です。これを減額しようとする命の値踏みは重度障害者を「生殺死」にするものです。

被害者家族が背負う苦難とは、次の3つの真実を見つけることです。衝突の真実、被害の真実、主張の真実です。まず衝突の真実、この真実を見つける行動とは、

- ①事故現場の状況をすぐに確認すること
- ②交通捜査係から状況を確認すること
- ③犯罪被害者支援制度を活用すること
- ④押収品返却時に加害者車両を確認すること
- ⑤公訴までに証拠を探すこと

本来、このようなことは被害者ではなく警察・検察がしっかりすべきことでした。

「真実」を見つけ主張することは死を目のあたりにしている被害者やその家族が背負う負担にしか過ぎません。今日、事故から7年間が経ちましたが、当時の被害直後の事故現場の写真、加害者の車両、現場に残された証拠等を収集したことは加害者の嘘偽りの証言を覆す「真実の証」につなげることに成功しました。その結果、公判で検察より「被害者は、対向車線を信号に従い走行していたものであり、落ち度はない。」と主張をしてくれ、裁判所も「起訴状記載の公訴事実と同一であることから、これを引用する」とし、「検察庁求刑禁固1年4か月」⇒「判決 禁固1年4か月 執行猶予3年」となりました。それでも事件直後に警察は、理解に苦しむが、加害者の主婦を何故か現行犯逮捕しなかった。今に思えば被害者軽視だと思う。おそらく昨今の交通犯罪の経緯から、この時代に釈放はしないと思うが当方の感情では悔しい事だった。その上、この主婦はその後の主張で嘘や偽りを繰り返し、検察官や裁判官の質疑から信憑性に掛ける回答を繰り返していたが、過去の判例から人身事故初犯には執行猶予が与えられることになる。無責任極まりない犯罪者に被害者と被害者家族には悔しい思いでたまらない。仮にひき逃げ犯でも執行猶予5年が一般的な判例らしいですが高校卒業直後に犯罪被害を受けた未来のある者に対して、自身の保身を求め、嘘の証言と主張を繰り返す交通犯罪者が、私と同じ子を育てる親としての人間性の感覚は如何なものでしょう。犯罪被害を受けた未成年の人生を奪い、真実を捻じ曲げてでも利己に走る大人たちは日本社会の国益を損じる存在だと思いました。

最後に交通ボランティアの皆さんへ、お伝えしたいことです。

要約してお伝えしますが、運転免許は「取る時代」でなく「配る時代」であるということです。それにより法令順守が希薄な時代と思えます。

次に、「空間把握能力」の重要性である次の運転の3要素が課題だと思います。

- ①「車両感覚」→はみ出し走行、首振り走行。
- ②「距離感覚」→停止線での停車位置と車間距離。
- ③「速度感覚」→これは危険回避の「時間」と急停車までの「距離」です。

これらの要素を疎かにすると災難につながることを人々に伝えることで多少なりとも事故は低減させることが出来ると思います。

以上、この愚論が皆様のお力添えになれば幸いです。

■活動事例発表

中野交通安全協会 会長

高野 允雄

私は東京都より参りました中野交通安全協会会長の高野でございます。東京 23 区の中に中野区という町がありますが、ご存知でしょうか。場所は新宿の隣と表現するのが分かりやすいでしょうか。そこには中野警察署と野方警察署の 2 つの警察署があり、中野警察署と連携を図り、管轄する地域の交通安全を担うボランティア団体でございます。

高層ビルも存在し、都心への交通が至便なことから、住宅街としてアパート・マンション棟は密集し、人口は多く、人口密度は豊島区に次いで 2 番目で、裏通りも多い地域です。

当協会は昭和 21 年 4 月 1 日設立。戦後の厳しい時代から現在へと交通安全を願う地域住民の有志たちが 76 年の長きにわたりボランティア精神に燃え、献身的に取り組んで参りました。組織としましては、9 つの職域と専門部隊があり、その中の青年部では、広報活動を行っております。ドライバーや自転車利用者に対して、「ストップ！横断歩道」や「ダメ！ながらスマホ」などのメッセージを伝えています。また繁華街ではアルコール類提供飲食店に対し、一軒一軒巡回し、飲酒運転根絶を呼びかける活動を行っております。ハンドルキーパー運動もその一環でございます。

安全運転管理者部会では、主要交差点で子供と高齢者の誘導活動や反射材の配布を行う街頭活動を実施しております。その他にも多くの活動を展開しておりますが、今回はその中からジュニア部会の通学路・安全運転呼びかけ隊についての取組を発表します。呼びかけ隊結成については、警視庁交通部の施策によるもので、登校中の子どもたちを、車で跳ねて死傷者を出すという痛ましい事故が起こったことがきっかけです。この活動は、各小学校周辺の地域住民に対し、交通ボランティア要員を募り、小学生の登下校時を始め、土曜日のスクールゾーン車両通行止め解除となる学校公開日に、危険箇所立ち、街頭活動を実施するものです。通学児童に対しては、「車が来るから気をつけて！」と呼びかけ、車両のドライバーに対しては、「子供たちが通学しています。スピードを落としてください。」と呼びかけながら、横断注意プレートで呼びかけをしております。さらにわかりやすいように、お揃いのベストを着て注意を呼びかける活動をしています。このように呼びかけた隊員が並んで、道路に立って注意を喚起する姿は非常に目立ちます。地域の交通安全意識の高さと、情熱を感じ、ドライバーも自転車等もブレーキを踏まずにいられません。実は私も初めて見たとき、一瞬交通取締かな？と思い、ポケットから免許証を出した経験があります。そのくらい鮮烈に残っております。子供達をしっかりと守る大人の姿が実に頼もしく圧巻です。またこうした姿を目にする多くの人々に対し、交通安全意識向上の相乗効果をもたらすものと思います。自分の命は自分で守ることがまだまだできない子供たちを私たち大人は守っていくことは、まさに地域の役割・責任だと考えております。

本日は中野区の野方交通安全協会は欠席しておりますが、活動の紹介は預かっておりますので、紹介させていただきます。野方警察署共に活動を行なっている野方交通安全協会では、交通安全についての周知を図るために、日頃より講習会や高齢者の事故防止対策としてリストバンドの反射材などを配布しております。特に啓発グッズは興味を持ってもらうために、オリジナルキャラクターのノガタ君を作成して、啓発に活用しています。小学校中学校の子供達に向けた交通安全啓発としては、交通安全教室を実施しております。スタントマンの体を張った交通事故の再現を見学していただくことで、事故の衝撃など体験して頂き、交通ルールの大切さを実感していただくことを目的としております。

つづきまして中野区では、独自の取り組みとして、中野区が交通安全に関する講習会の受講者に対し、2,000円を上限とする自転車点検整備費用の助成券を発行しております。自転車の点検整備を促進し、自転車の安全性の向上を図ることで、自転車事故を未然に防ぐとともに、自転車保険の加入促進を目的としております。また児童に対する交通安全対策として、毎年入学児童に対し黄色い帽子とランドセルカバーを配布しております。その他各関係機関と連携して実施する通学路点検や、通学時間における通行規制場所へのバリケードの設置などの取組を行なっております。私共の中野・野方交通安全協会は、中野・野方警察署と協力し、毎年自転車の事故防止キャンペーンや中野区交通安全の集いを開催し、区民や管内の学校、児童等に対し、交通安全に取り組んでおります。

最後に中野区では、現在電動キックボード業者がレンタル事業を開始するなど、交通環境が大きく変わってきており、様々な便利な乗り物であろうとも、未来に向けて安全に乗り、優しい人と交通社会にしたいと思っております。

青梅交通安全協会 会長

岩浪 岳史

警視庁管内の青梅交通安全協会会長の岩浪でございます。お話と動画の上映をさせていただきます。はじめに、警視庁青梅警察署と青梅交通安全協会の紹介をいたします。管轄地域は、東京都の青梅市、奥多摩町になります。東京都の一番西になります。東京都の面積の約6分の1から7分の1程度の広さを管轄しております。警視庁管内には、大体100位の交通安全協会がございますが、もっとも広い面積になっておりまして、実際どのくらい広いかというと、管内を自動車ですら1週すると、ずっと止まらずに走り続けても、約半日かかります。ところどころ寄ったりしますと1日かかる広さになりますので、広さがおわかりいただけるかと思っております。私共青梅交通安全協会では、この広さの地域を15の支部に分け、いつも見ております。コロナ禍で活動が制限されておりますが、出来る限りの活動をしているところでございます。今回お話をいたしますのは、今年5月30日に青梅市と共に私共、交通安全協会が、首都圏交通対策協議会会長賞を頂きましたので、青梅市の発表をさせていただきます。

ホームページを共有させていただきます。青梅市役所のホームページになりますが、私共協会と青梅市が感謝状を受賞しましたというものになります。画面向かって左側が青梅市長でございまして、一番右側が私でございまして、真ん中は小池都知事となっております。

主な活動内容と今回の受賞の理由でございまして。1件目、青梅警察署・交通安全協会・社会福祉協議会・青梅市と連携し、子供向けの交通安全動画を作成して交通安全教育を推進しました。2件目、小学校3年生を対象に交通安全教室において、自転車運転免許証を発行するとともに、実技指導時に自転車店による自転車構造などの説明を実施し、交通事故防止を図ったということでございまして。1件目の動画を見ていただこうと思います。5分のビデオですので、音声は流れませんが、画面を見てください。画面奥から白バイとパトカーが来まして。これは私と社会福祉協議会の方、ゆるキャラが3体いるということでございまして。ピーポ君は警視庁のキャラクターでご存知かと思いますが、真ん中の女の子が「ゆめうめちゃん」という青梅市のゆるキャラでございまして。一番右側、「お〜ちゃん」は社会福祉協議会のゆるキャラでございまして。この後の4つ事例で子供にルールをしっかり確認してもらおうという試みでございまして。「横断歩道から渡ろう!」ということなのですが、子供役は市役所の方です。「飛び出しは危ないよ」と、字幕にあるようなことを話しております。青梅市には交通公園というのがあり、40年くらいある施設ですが、こちらでこの動画の撮影を行なっております。2点目は道路で遊ばないという事例です。3点目は右左を確認して渡ろうという事例です。3点がお子さんに対してですが、4点目は大人向けです。おさんは大人の行動を見ています。大人の方も急いでいても、横断歩道を渡ろうというお願いです。青梅は交通量の少ない所もありますので、横断歩道が遠くて渡ってしまうというケースもあります。ビデオは終了です。YouTubeでも流していますが、各学校にも配布しております。

最後になりますが、青梅交通安全協会も2年半はコロナで活動が制限されております。その間、交通事故の傾向も変わってきましたが、東京都でも自然の豊かな地域ということもございまして、大きな特徴としましては、外からきたオートバイの単独の事故が多い、高齢者の事故の関与率の高さ、これが大きな特徴となっております。春秋の全国交通安全運動のやり方を変えて続けておりますが、各地域の交通安全講習会等の人を集めるイベントが中止になることが多い現状です。これから本日皆様からいただいた事例を参考にし、コロナの状況をみて活発な活動を取り戻していきたい所存です。本日はありがとうございました。

茨城県交通安全母の会連合会 理事

吉江 静江

皆様こんにちは。土浦地区交通安全母の会連合会会長、吉江静江です。よろしくお願いたします。本日は笑顔いきいき交通安全教室シルバーリハビリ体操中心に発表いたします。

私たちの会は昭和42年に設立し、今年で55年目になります。今年の会員数は692名です。主な取り組みはご覧のようになっています。コロナ禍で高齢者交通安全教室についてご紹介いたします。交通安全課長の講話や、交通事故防止に繋がる脳トレ及びシルバーリハビリ体操を行いました。シルバーリハビリ体操は、茨城県健康プラザ管理者であり、茨城県立医療大学附属病院名誉院長である多田仁先生が、高齢者が心身ともに健康で過ごせるように考案した体操で、関節の運動範囲を維持拡大するとともに、筋肉を伸ばすことを主な目的とする体操です。現在15の道県、89の市町村で、シルバーリハビリ体操指導士養成事業を実施しています。

それでは体操の実技に移らせていただきます。交通安全のためのシルバーリハビリ体操には、ご覧のような体操があります。それぞれの項目から一つずつ紹介します。体操ができる環境ではないと思いますが、出来る範囲で皆様も一緒に体験してみてください。最初は首や肩をリラックスさせる体操です。足は肩幅くらいに開いて両足をしっかり床につけ、背もたれに寄りかからず、背筋を伸ばして座りましょう。胸の前で指を組み、真っ直ぐ前から引っ張られるように伸ばします。両腕を頭の上に上げ、上から引っ張られるように、十分に伸ばします。両腕をゆっくり下ろして手のひらを頭の上に下ろします。手のひらを頭の後ろに回し、肘を張り、胸を反らし、少しその状態を保ちます。肘を元に戻し、反対の手順でゆっくり元の姿勢に戻ります。次は左右の確認をしやすい体操です。右の手で左の肩を掴みます。左右の肘が重なるように、左手を下からすくうようにしながら右の肩を掴みます。右のお尻に体重を移し、体を右の方にゆっくりとひねります。そのまま少し保持します。ゆっくり元に戻します。次に体重を左のお尻にうつし、体を左の方にひねります。ゆっくり元に戻します。次はハンドル操作をしっかりとするための体操です。左右の指を軽く曲げて引っ掛けます。親指も反対側の小指にひっかけ5本の指すべてを使います。そして画面に出ています一発体操の号令をかけますので、私が数え始めたら左右の手を引っ張りあってください。号令をかけます。軽く息を吐いて思いっきり吸ってゆっくりはきながら、1・2・3・4・5楽しんでください。手を組み替えます。号令をかけます。軽く息を吐いて思いっきり吸ってゆっくり吐きながら1・2・3・4・5はい、楽しんでください。最後になりますがブレーキやアクセル操作を確実にするための体操です。足の関節を伸ばしたり、曲げたりすることで、血流をよくします。両手で椅子の左右をつかみ、右足を伸ばし、かかとを床につけます。ふくらはぎを伸ばすように、つま先を自分の方に引きつけます。はい、緩めてください。次に、足の甲をのばすように、つま先を遠くに突き出します。はい、緩めてください。足を交換します。左足を伸ばし、かかとを床に

つけます。つま先を自分の方に引きつけます。はい、緩めてください。つま先を遠くの方に突き出します。はい、緩めて元に戻します。時間の関係で4つの体操しかご紹介できませんでした。映像のモデルを大きく出せなくて残念でしたが、実際の体験を通して自分の体力がどれくらいかお分かりいただけたら幸いです。定期的に継続して体操することで、少しでも、改善されることを願います。

シルバーリハビリ体操指導者は、茨城県及び土浦警察署から交通安全アドバイザーとして受けています。交通安全に対する言葉かけや、ちらしなどを配布しております。反射材の取り付けたバックを手作りし、会員に配り、周囲の人たちに理解していただけるように工夫しています。以上のような活動ですが、時間の都合上終わらせていただきます。ありがとうございました。

栃木県交通安全母の会連合会 会長

寺山 厚子

栃木県交通安全母の会連合会会長の寺山厚子と申します。本日は交通安全母の会の活動について発表させていただきます。宜しくお願い致します。本日の内容ですが、①から⑤の通りでございます。まず栃木県交通安全母の会について簡単に説明いたします。栃木県交通安全母の会は、家庭では母親として、また子供たちの保護者として、子供たち高齢者の命を交通事故から守るという基本理念のもと、「交通安全は家庭から」を合言葉に昭和16年3月から活動しております。この会の発足した昭和40年代は、第1次交通戦争とも言われ、経済成長の中で交通事故死者も多発しておりました。例えば昭和45年には、全国で16,765人が交通事故で亡くなれたと言われております。この事故被害者の中でもとりわけ子供と高齢者の割合が高かったため、家庭での交通安全教育を推進すべく、本会が発足しました。交通安全母の会は、かつて全国組織である連合会が存在しましたが、現在は各県単位市町村単位で独自の活動を行っております。栃木県内では、15市町の団体が存在し、主な活動としては、春秋年末の交通安全県民総ぐるみ運動、交通安全県民大会への参加協力、新入学児童交通事故から守る県内統一運動などが挙げられます。

栃木県の交通事故発生状況について説明いたします。本件の交通事故死者数は昭和46年が最も多く485人がお亡くなりになっております。また発生件数及び死傷者数については、平成15年にピークを迎え、その後は減少傾向にございます。過去5年間の交通事故発生状況になります。発生件数・死傷者数は減少傾向にあり、特に死者数についてはピーク時の10分の1程度になるなど、県市庁や警察、関係団体の皆様の努力はもちろんのこと、当団体が実施してきた家庭における交通安全推進が一定の役割を果たしたものといえるのではないかと考えております。しかしながら子供の交通事故について、全国に占める割合は高くないものの、死亡事故発生しており、引き続き子どもの交通事故防止に取り組んでいく必要があると考えております。

栃木県交通安全母の会の活動実績についてです。主な活動としては、春秋年末の交通安全県民総ぐるみ運動などにおける啓発活動でございます。こちらの写真にありますように、朝の通勤通学の際に、交通安全について呼びかけを行うなど、街頭啓発を積極的に行なっております。また県の交通安全対策主管課と連携し、新入学児童とその保護者に向けたリーフレットを作成しております。リーフレットには、子どもたちに守ってほしい交通ルールや、気を付けてほしい場所、保護者の方には、通学路の点検ポイントなど、子どもたちを交通事故から守る為の内容を盛り込んでおります。リーフレットは、県内すべての小学校に配布し、新一年生に配布してもらっています。

また私は、足利市交通安全母の会の会長も務めておりますので、せっかくの機会ですので足利市交通安全母の会の活動についても紹介させていただきたいです。足利市交通安全母の会では、新入学児童に交通安全の大切さを伝えるため、保護者に足利市のイメージキャラクターであるタカウジ君の絵柄が織り込まれたタオルハンカチを配布しております。また登校する前に、子供にハンカチを持たせる時に、交通ルールを守ろうね！車に気を付けてね！と声をかけるキッカケ作りを通じて、交通安全に関する思いが伝わってほしいと願っています。

活動実績については簡単ですが以上になります。最後になりますが、朝元気に出かけた家族が夕方無事に帰ってくることは、私たち母親全員の願いでございます。子供達の模範となるよう私たち大人も正しい交通ルール・マナーを実践し、子供たちを交通事故から守っていくことが重要であると考えております。交通安全母の会と致しましても、引き続き「交通安全は家庭から」を合言葉に、活動して参りたいと思います。以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

富士河口湖町 地域防災課 交通指導員

渡邊 宏恵

山梨県富士河口湖町地域防災課交通指導員の渡邊宏恵です。交通安全動画「ふじびよんと交通安全を学ぼう！」について発表いたします。宜しくお願い致します。

富士山の北麓に位置します山梨県富士河口湖町は、富士五湖のうちの河口湖・西湖・精進湖・青木ヶ原樹海・富士ヶ嶺高原などで形成されております。交通面では、中央高速道路で一時間半くらいと都心からのアクセスがとても良いので、四季折々の自然を求めて、国内外から多くの観光客の方が訪れる国際観光地となっております。人口は約 26,000 人です。例年間で人口の約 200 倍以上の観光客の方が訪れます。コロナの影響が始まった一昨年でも、人口の約 60 倍とたくさんの方が街に来てくださっております。車で来る方が多く、今はちょうど紅葉も見ごろだったりしますので、週末は主要道路の渋滞が慢性的に発生しています。昨年の交通事故発生件数は、67 件。うち 3 割が、町外の方です。約 2 割は歩行者に関連する事故でした。歩行者関連の事故がなかなか減らないのが現状となっております。

次にタイトルにもありました「ふじびょん」についてご紹介させていただきます。平成25年富士山が世界文化遺産に認定されたことをきっかけに作られた町のいわゆる、ゆるキャラです。町内で知らない子供はいないくらい親しまれております。管轄の富士吉田警察署管内で、歩行者と車の交通事故が発生したことを受けまして、ふじびょんは、横断歩道安全利用推進大使に委嘱されました。山梨県警からの推進内容は、ハンドサイン運動とダイヤモンド運動です。ハンドサイン運動とは、横断歩道を渡る歩行者とドライバーがお互いに合図を送りあい、危なくないようにするという事です。それから、ダイヤモンドは、進行方向に横断歩道があることを知らせるものです。その認知度を高めて、歩行者保護の意識啓発を推進するということが求められました。そこでふじびょんの活動の一環として、動画を制作いたしました。町内の子供たちにとっては、とても身近な存在になっている、ふじびょんと一緒に交通安全について学ぶ内容となっております。登場する運転手役は、町の防災係長です。警察署・ケーブルテレビ・町役場が協力し、町役場の敷地内で製作をいたしました。この取り組みは内閣府からも評価していただきまして、公式ツイッターでも紹介していただきました。動画の内容を4分間という短い時間も子供が飽きずに最後まで見てもらうための一つの工夫となっております。それでは実際に動画をご覧くださいと思います。

この映像を制作したのは、コロナ禍における交通安全の方向について模索している時期でした。在宅時間が増える時期でこそ、交通安全を話題にしてみようと考え、制作しました。ホームページ、YouTube、ケーブルテレビで放映することにより、保護者と子供一緒に視聴してもらうことができます。子供だけでなく、運転手さんの立場である保護者の方々にも、交通安全について考えていただくきっかけとなりました。また私ども交通指導員が直接小学校や保育所に行って交通安全教室を開催することができなかつたため、これをDVD教材として配布をいたしました。授業の中で視聴してもらい、先生方から説明してもらい、教材として活かすことができました。コロナ禍であっても命を守る正しい交通安全行動を学ぶということを途切れさせない為に、非常に有効だと考えております。現在行動が緩和されつつありますが、この動画を視聴してもらい、ふじびょんと一緒に交通安全について子供たちには学んでもらっております。ご清聴ありがとうございました。

軽井沢交通安全協会事務局長

大澤 忠興

軽井沢交通安全協会の事務局長をしております大澤です。こちらにお世話になり3年目になります。軽井沢町はご承知の通り、日本有数の観光地で人口約2万人に対して観光客数年間840万人という特殊な地域であります。交通事故も特有のものがあ、県外第1当事者の事故が長野県の平均が約6%のところ、軽井沢町は30%前後を占めています。このような状況の中、警察と町で連携し、交通安全協会の立場と役割を確認しながら、創意工

夫をした交通安全活動を推進しています。これから私が着任してから実施した活動を中心に実施した順に紹介させていただきます。

軽井沢交通安全協会だよりです。ここでは交通事故防止や活動の紹介などを掲載した A4判の広報誌を毎月作成して、回覧板で全町内を回してもらっています。

シルバー運転教室で町から委託された高齢者再教育授業で、10年くらい前から実施されており、自動車学校で実際に教官が同乗して運転をチェックしてもらい、事後の運転に役立ててもらおうというものです。

歩行者保護啓発マグネットシートの製作。横断歩道における歩行者事故防止のため、「横断歩行者にやさしい軽井沢」という文字で、背景が軽井沢彫の写真の横断歩行者保護マグネットシートを1,000枚制作しました。このマグネットシートは車両の後部に取り付けてもらい、横断歩行者保護、広報啓発するもので、小学校PTAの皆さん、タクシー、バス会社等、町内に広く配布しました。

交通死亡事故発生現場を中心に、注意喚起看板を設置。信号機のある交差点で右折した車と横断中の歩行者が衝突して、歩行者が亡くなるという死亡事故が発生したことから、交差点の角の電柱に横断歩行者注意という大きな文字の看板を設置しました。

軽井沢西部小学校にたすきを贈呈。地域の子どもは地域で見守ろうという学校の取り組みから、子供安全パトロールという文字のたすきを100枚贈呈し、見守り活動に活用してもらっています。

軽井沢中学校に自転車用赤色リアライト贈呈。自転車通学の生徒の薄暮時・夜間における交通事故防止のため、自転車用赤色リアライト250個を贈呈し、通学自転車に取り付けて活用してもらっています。

歩行者、自転車保護のための横断幕の設置。軽井沢町は自転車や歩いて回る観光客も多いことから、「歩行者・自転車にやさしい街 軽井沢」という文字の長さ7メートルの横断幕を2枚製作し、歩道橋の手すり部分に取り付け、広報啓発をしています。

オリジナル交通安全お守りを制作。交通安全協会への入会率を高めるため、熊野皇大神社とコラボしてヤタガラスの図柄を入れたお守り1,500個を製作し、入会者への粗品の一つとしています。

高齢者に対する交通安全出前講座の実施。体操教室など的高齢者の集まる所に出向き、15分から20分くらいの時間をもらい、交通安全の講話やチラシ、交通安全グッズを渡すなどして事故防止活動しています。

優良交通安全協会賞受賞。全日本交通安全協会会長から優良交通安全協会として、表彰をいただきました。

軽井沢交通安全のホームページの開設。現代はネットの時代で、情報を発信するにはホームページが有効であると考え開設しました。交通事故防止情報、活動の紹介、窓口・会員向けの案内、軽井沢交通安全だよりなど掲載しております。

チャイルドシート貸し出し開始。乳幼児の事故防止等、会員向けサービスとして短期間の貸し出しを始めたところ、多くの申し込みがあり、好評をもらっています。画像は軽井沢町のホームページに掲載されたものです。

交通安全祈願祭、殉職警察官慰霊祭にご遺族が出席。交通安全守護神の石碑を50年ぐらい前に町内に建立してありますが、毎年命日の5月18日に、交通安全祈願祭並びに殉職警察官慰霊祭を開催しています。今年は40数年ぶりに、ご遺族の方に声をかけて出席していただきました。

交通事故防止の広報や各種活動に活用するために、軽井沢交通安全協会のイメージキャラクター「からすのヤタちゃん」を制作しました。夜間の交通事故防止とイメージキャラクターを周知してもらうために、反射キーホルダー1,300個を制作し、交通指導所や街頭活動時などで配布しています。

イラスト看板の制作。歩行者保護をより注目してもらうことを目的として、オリジナルのイラスト注意喚起看板を製作し、横断者の多い場所4箇所に設置しました。

最後ですが、街道喜作君の反射キーホルダー制作。看板と同じイラストで反射キーホルダーを製作し、町内の小学校児童約1,100人全員に今月配布予定です。

17項目について紹介させていただきましたが、何かの参考にしていただければと思います。これからも変化していく交通情勢にアイデアを出しながら、交通事故防止活動を推進していきたいと思います。以上で終わります。ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

特定非営利活動法人

日本こどもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子

宮田先生：皆様お疲れ様でした。佐藤様のお話を聞いて交通安全の大切さを改めて感じる時間になりました。活動事例発表も興味深く拝聴させていただきました。ここから私がコーディネートさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

6名の方の発表の感想をお話しさせていただき、その後発表した方、リモート参加の方のこのような苦勞があります！や、これを聞きたい！などお話し頂き、より良い時間になるのではないかと思います。是非質問など考えておいてください。

まず高野様の発表です。ありがとうございました。一番初めに発表いただきまして、言葉の強さを感じました。お言葉が強く、ボランティア精神、献身的に活動してきた言葉通りの力強さを感じ、拝聴させていただきました。黄色い傘文字「ストップ！横断歩道」など、皆さんに伝えたいことを書いて、視覚的にドライバーに伝わるし、一般の歩行者にも目に留まりますから、良いなと思い見ておりました。目立つ広告があつて良いと思いました。道路に長いプレート「子どもが通行しています」「スピード落としてください」その

道、その道でドライバーに訴えたい事を見せてあげるのは、良いですよ。こうしてほしいと訴えるのは大事なことです。浸透していきますよ。日々の活動が実を結んでいくのだと感じました。キックボードという新しい取組を進めているとのことでした。新しいことへ対応を進めているとのこと、ボランティア精神で活動されていると思いました。ありがとうございました。

岩浪様の発表です。都知事から感謝状をいただいたとのことでした。子供向けの事故防止などの動画を見せていただきましたが、大人向け・子供向けがあり、大事なことだと思います。ゆるキャラのどのような反響・好評があるのか、変化があったのか今後聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。

吉江様の発表です。活動内容としては、年代を通して様々な活動をしている中で高齢者の交通安全を考えると、会場の皆さんも楽しく体操をさせていただきました。運転の為に脳の活性化する必要がある、と専門家が考案してくださったとのことでした。体操実演していただいて、私も運動不足で、ここ痛い、と思いつつやりました。良い取り組みですね。反射材を使った鞆もおしゃれで、どれくらい作成するのに時間や予算がかかったのか聞いてみたいと、拝見しておりました。ありがとうございました。

寺山様の発表です。「交通安全は家庭から」という合言葉にしているわけですが、入学児童、保護者に向けてリーフレットの中身も親御さんに理解してほしい事、どんな風に道路を見たら良いのか、危険を予測したら良いのか、ポイントがまとめて書いてあるものは、見てもらいやすいですし、これから学校に行くので心配している親御さんにも手渡されると、活用していただけるなと思いました。足利市のタオルを持たせる時に、「交通安全気をつけようね」と一言添え、毎日忘れないでくれるでしょうし、親御さんの気持ちも伝わるだろうし、良いことだと思います。ありがとうございました。

渡邊様の発表です。ハンドサインの活動について子どもは小さいので、手を高く上げ体を大きく見せることで、ただ立っているのではなく、渡りたいです、ということドライバーにしっかり伝えて、「渡りたいのだな。どうぞ」と、次に子どもが「ありがとう」と伝える、これも良いですよ。ハンドサインの活動は良いと思いました。動画もありましたけど、コロナ禍でどう工夫するのかとありましたけど、町民向けに作ったとのこと、親しみをもってもらえるなと思いました。ケーブルテレビやYouTubeなど様々なツールを使って見られるようにしていて、現代に合っていて良いと思いました。学校でも使ってもらっているとのことでしたので、コロナ禍は集まることは出来ないし、活動が難しいということで、動画を活用することは良い方法だと思います。ありがとうございました。

最後に大澤様の発表についてです。県外が多く30%にものぼっているということでした。具体的な対策が沢山ご紹介いただきました。シルバー運転教室で3人1組、専門家に無料でみてもらえるのは、受けやすいのではないかと思います。1人だと行きづらいくらいといった配慮がされているのだと感じました。マグネット1,000個作成し、配布したとのことでした。配布した後、どのくらい活用しているのかと思いました。曲がり角の所

に注意喚起の看板を取り付けたということで、危険なポイントの箇所で、気を付けてほしいところで目に入る高さについているのは、ドライバーに分かりやすく、注意喚起になると思いました。中学生へ自転車用赤色リアライトを配布したとのことで、具体的な取組で良いですね。故障しても使ってもらえる対策やっていただけると良いと思いました。オリジナルのお守りも 1,500 個作成したとのことでしたね。予算なども気になりました。素晴らしい活動が多いので、どのようになさっているのか聞いてみたいと思いました。チャイルドシートの貸出、とても良いですね。各家庭で買うと思いますけど、なかなか必要ではなくなることを考えると借りられるというのは一つの選択肢として良いと思いました。具体的な活動を掲載していただいて、どのような反響があったのか伺ってみたいです。ありがとうございました。

ここからは、皆様がこれ聞いてみたい、聞き逃してしまったなどありましたら挙手いただければと思います。リモートの方も挙手機能等使ってお知らせください。

●：山梨県の地域防災課の方に質問です。「ふじびょん」を作成するにあたり、費用とか経緯とか伺いたいのと、横断歩道の利用推進ということでどういう活動か具体的に知りたいです。

●：「ふじびょん」というキャラクターは、平成 25 年に町のキャラクターとして制定されました。動画の作成に関しては、ケーブルテレビと町の方で作成いたしました。ケーブルテレビと契約をかわし、YouTube はケーブルテレビの YouTube で町のリンクを掲載させていただいて行なっております。ケーブル、町の両方で負担するという形になっています。動画の方は、交通安全で保育所に伺った時に、教室の中で「ダイヤモンドがあるところに横断歩道があるよ。」と伝えたり、実際の道路を使って練習するときに、積み重ねています。保護者や町の方は、町の情報誌などで周知し、歩行者運動は重要視されていなかったけど、2、3 年積み重ねてきて、意識の方が変わってきている。といった運動をしています。効果はどうあったか検証はできていないですが、地道に周知する形で運動を積み重ねています。

宮田先生：追加で何かございますか。

●：ダイヤチェック運動がありましたけれども、県と山梨県警と各市町村にもお願いをしております、2018 年度 JAF 様の山梨県横断歩道停止率が約 65%と、ランキングも上位 3 位ということで、すごく効果のある活動となっております。そちらを報告したく発表させていただきます。

宮田先生：ありがとうございました。具体的な数字を伺えると、是非やったらいいなと皆様も思われたと思います。ありがとうございました。他にご質問はいかがでしょうか。

●：土浦でやっていたことなのですが、手提げに反射板を付けている話で、制作費はいかほどでしょうか。

●：はい。表と裏どちらも使えるように作ってあります。それで大体 1,000 円いったかいかないくらいですね。結構お金かかるのです。

宮田先生：リバーシブルなのですね。裏はどんな感じですか。

●：土浦の会員は皆もっています。会員向けのものとなります。裏も使えるようにポケットも付けております。表は反射材を付けています。普通の生地です。

宮田先生：生地を購入する際に工夫して安く仕入れられるといいですね。他にいかがでしょうか。茨城県さんいかがでしょうか。先ほどは素晴らしい体操がありましたけれども。

●：ずっと同じ体勢でいると高齢者になると筋肉が固まってしまう、歩きにくくなることがあると思うので、車から降りるときに上に向けたり下に向けたりして降りるとよいです。

宮田先生：ありがとうございます。交通安全と直に関わってくることですね。もっと広まるといいと思います。他にいかがでしょうか。軽井沢交通安全協会さんのほうで具体的な取り組みをされていると思うのですが、活用率やエピソードを教えてください。

●：500枚の制作予定が足りず、1,000枚にしたのですが、小学校のPTAの皆さんが子供に配ってもらいたいという意識が強いと思ひまして、警察や町関係、タクシー会社に配布したら広まってきて、欲しいという方が増え、車に付けている人を街で見かけるようになりました。

宮田先生：素晴らしいですね。普及して皆さんに使ってもらえれば、見る人達もいるわけですね。とても良いアイデアです。他にいかがでしょうか。青梅交通安全協会さん視聴率はいかがでしょう。

●：実際は確認していないのですが、たぶん授業等で見いただいていると思ひます。

宮田先生：キャラクターもいいし、評判もよいですね。

●：そうですね。とっつきやすいのかなと思ひました。

宮田先生：可愛い顔ととっても合っていました。他にいかがでしょうか。中野交通安全協会さん、キックボードについて取り組んでいらっしゃるとのことでしたが、具体的にどのような取り組みでしょうか。

●：8月の後半でしょうか。業者さんにきていただき、キックボードの乗り方、その他の問題点もあり、実際警察官も最後の判断ができません。ただ、大きな公園でそれをやったら非常に反響がありました。また年内に公園でやると思ひます。

宮田先生：ほんと今子供たちに人気ですがけれども、見ている危なかったり、道路で乗っていてそれいいのかなと思ひますね。そういったことが決まらないうちに出てくるのはどうかと。これを交通安全として取り上げるというのもとても意味のあることだと思ひてきておりました。他にいかがでしょうか。

●：内閣府の西村でございます。貴重なご意見、発表ありがとうございます。1点、軽井沢のご活動について質問させてもらえればと思ひております。シルバー運転教室という形で、教習所で行なっていると思うのですが、経緯とか反響とか教えてもらえますでしょうか。

●：軽井沢町からの委託事業です。高齢者再教育事業ということで、免許更新のときに高齢者講習があると思いますが、それは時間が短かったりと思うので。10時～12時までの2時間、3人に1人教官がついて、細かく運転をチェックしていただき、採点までされます。高齢になると癖がついてきていますので、そういうのをチェックしてもらっています。受けた方は皆さん良かったと喜んでもらっております。予算の関係上、そんなに沢山はできませんが、ホームページや広報誌等で募集を募っていくようにしております。宮田先生：ありがとうございます。例えば何組くらいでしょうか。

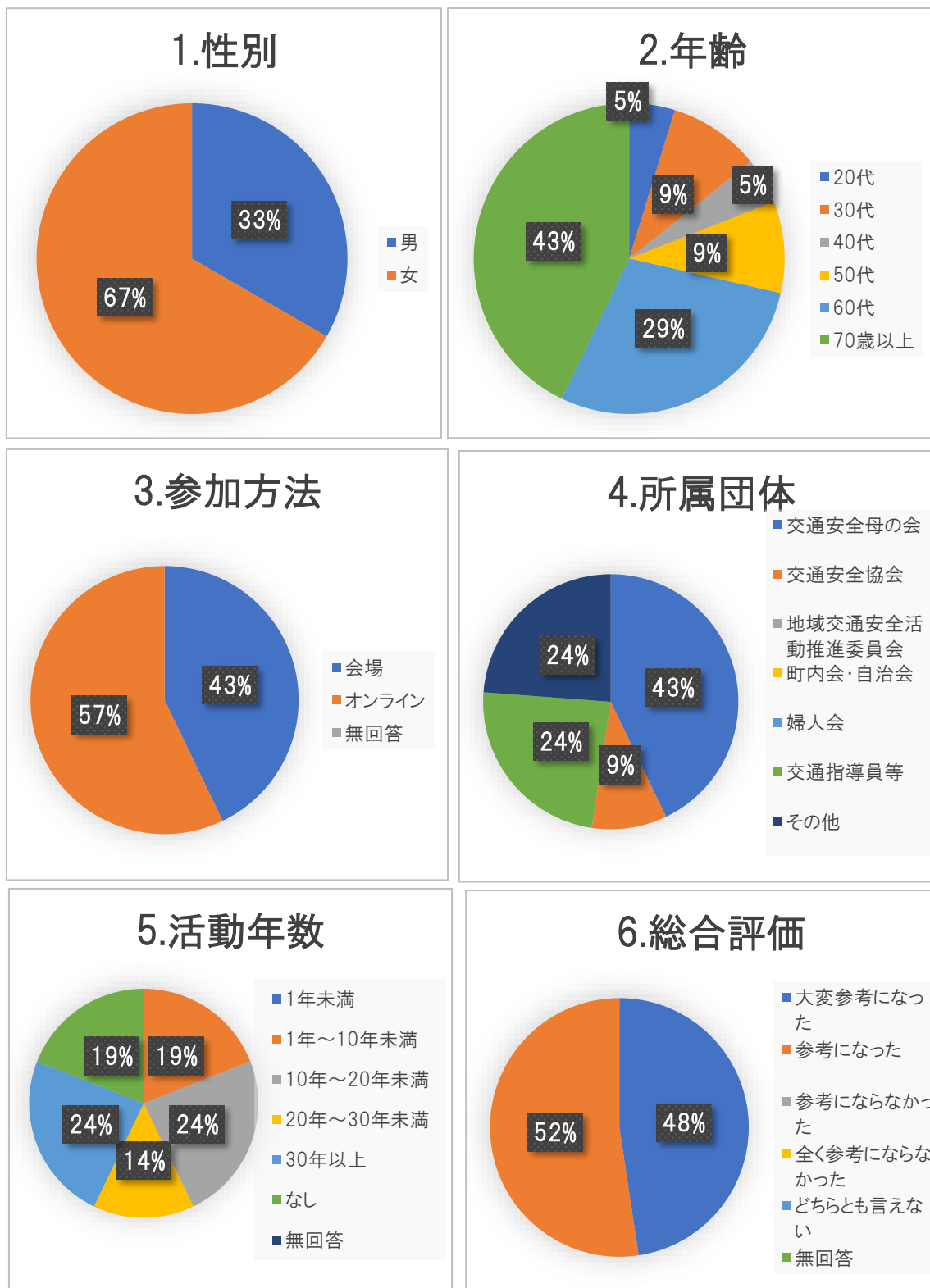
●：10組ですね。30名くらいになります。

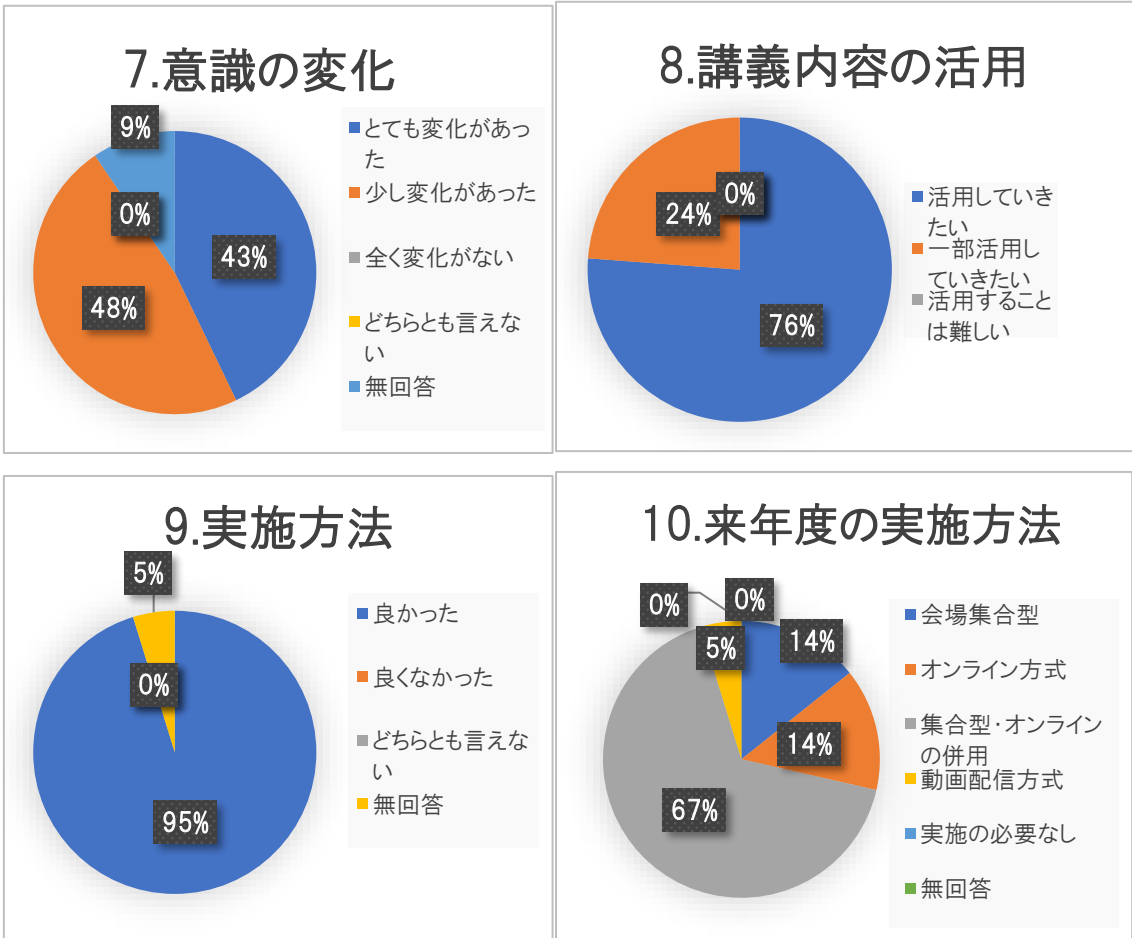
宮田先生：どうもありがとうございました。参考にさせていただきます。

■講評

皆さん活発な議論をしていただき、深めて色々なことが参考になったなと思いました。私も今年度もいくつかのブロックに行かせていただきましたけれども、皆さんとの交流会では様々な活動が聞けて本当に為になるというか、皆様の姿が見えるようなご報告をありがとうございます。沢山の活動を聞かせていただいたところで簡単ですが、まとめをさせていただきますと思います。冒頭にもお話ありましたが、事故件数が激減しているのということは、すなわち日々の活動の積み重ねに他ならない訳です。活動歴を見ますと、この会場、このブロックだけでも一番長い方でも52年、42年と長い年月を、ボランティア精神で献身的に活動されてきた、まさに皆様お一人お一人がそういうお気持ちであるということが伝わってきます。まだ数年という方は長い年月の方に続く、若手のホープということもわかりました。活動が継続していくということは日本の子供や高齢者様々な人たちの交通安全に通ずる貴重な活動ですので、是非火を灯し続けていけるようにしたいものだなと、ほんとに強く願うばかりです。日々のご活動を活発にさせていただき、ありがとうございました。皆様の健康にも交通安全にも気を付けて、ますますご無理のないところで、工夫を重ねて協力者を増やして皆で取り組んでいけるという交通安全教育、安全活動に繋がっていただければと思います。今日は大変貴重なお話をありがとうございました。

3.アンケート集計結果





⑪.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・交通事故の民事裁判について、保険会社の担当、裁判所関係者の意見等。
- ・反射材の効果、飲酒による影響。
- ・ボランティアの担い手の育成・市町村の役割。
- ・子供の自転車教室は、はまっこ交通安全教室で行なって、ルール説明をしているが、大人の自転車マナーの悪いのをどこかで行なってほしい。
- ・歩行者・自転車、お年寄りなど弱い人たちの内容の勉強会が必要ではないか。
- ・高齢者事故の対策、長年マイルールでやってきた年配の方に対して交通安全教室を開催した際、より効果的に聴いていただく方法。どんなデータを出せば興味を持ってもらえるか、限られた教材で実技などを行う方法。
- ・自転車の乗り方等。
- ・子供・高齢者の研修として来たが、事故にあう人は、このような講習・イベントに参加していない。どうしたら参加して頂けるか。イベントのやり方、参加型等の実技も入れた方が良くと思います。
- ・車の運転者にもっと、交通ルールに関心を持ってもらいたい。人の命が大切だ。
- ・①人の心に届けられる講話の仕方②免許返納やその後の（行政）サポートについて③大学

生の一般の交通安全教室を受講する機会がない世代への交通安全教育の実施方法。

- ・具体的に交通安全教室の内容等、他県では伝え方などはどうやっているのか。
- ・各県・地域で設置している、道路標識以外の注意喚起看板等の現状や取り組み状況。

⑫.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・インターネットの活用事例・方法。
- ・ハンドプレートキャンペーンの活用方法。
- ・自転車ヘルメット使用に《義務》がどれだけ必要か、押し進めていくべきです。
- ・団体毎の研修会。最寄りの警察・役所の場所で知識を広げる為の研修が必要と思う。
- ・内閣府主催ではなくとも、民間主催の研修等も情報提供していただけると助かります。実践的な技術を学べる機会が中々ありません。
- ・交通ボランティア活動がマンネリ化しやすい状況にあって、他県の人達の色々と違った切り口で活動していることを知りとても参考になりました。
 - ・ボランティア活動の実技実施・講習会等を開催。実技は特に必要。また、交通ルール知識の試験も良いかと思えます。
 - ・自転車のルールの確認。自転車の扱いの変化が多い為。
 - ・実際の安全教室の映像を見てみたい。
 - ・自所以外の交通ボランティア団体の種類や活動を紹介した冊子等があれば参考になります。

⑬.本講習会の運営、スタッフについて

- ・ご多忙の中、講習会の運営ありがとうございました。スムーズな進行でとても参考になりました。
- ・大変良かったと思います。
- ・臨機応変に対応頂きありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・とても良かったです。
- ・事前打ち合わせ、テストなど、何度もご迷惑をおかけしましたが、ご丁寧に対応して頂きました。ありがとうございました。
- ・オンラインの場合、はじめに参加者（オンライン）を紹介した方が良かった。
- ・会場集合、ZOOMの併用でしたが、ZOOMならではの様々なハプニングへの対応、お疲れ様でした。コロナ禍で、なかなか県外に出られないのでZOOM型は助かります。
- ・丁寧で良かったと思う。
- ・わからないことがあって電話をすると、親切に対応してもらって助かった。

⑭.その他、ご意見ご要望ご感想などお聞かせください

- ・オンライン参加の場合、事前 URL の使用確認と広く使えるようになると良いと思いました。
- ・キックスケーター・ブレードは公道では乗れないのではないですか。電動キックスケーターは免許が必要？
- ・自転車のマナー・ルールの講演は、もっともっと広げていくといいなと思います。とても良かったです。
- ・私たちの地区では自転車にむけて啓発活動しており本日の講義は大変参考になりました。
- ・本日、オンライン講習会は初めての参加でしたが思ったより集中でき、講師の話がしっかり聞けたように思います。遠方での行き来時間が短縮されたのでそのぶん集中出来ました。
- ・素晴らしい内容でしたが、参加者が少なくとても残念でした。ボランティア等に限らず、市町村担当者含めもっと多くの方に参加して頂きたかったです。「費用対効果」を考えるともったいなかったです。講義、発表ともにとっても参考になりました。
- ・自分の命を守る為、すべての人が交通安全に対する知識を身に付けて実践して欲しいと切に願います。佐藤昌史氏の講演は胸を打ちました。
- ・交通安全は大切な事が分かりました。
- ・今回、自転車をテーマにした講演で新たな気づきが多くあり、すぐに実践に繋がれると実感しています。楽しくあっという間の 70 分でしたが惹きつける話し方の力に感服致しました。
- ・貴重な体験でした。

4.写真

【関東・甲信越ブロック】



来賓挨拶 神奈川県



講演 稲垣具志 先生



講演 佐藤昌史 先生



コーディネーター
宮田美恵子 先生



事例発表



意見交換会